－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	アナウンスメントの基礎						
担当教員	吉岡　美賀子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	アナウンスメントの基本とされるニュース原稿の読みについて理解と実践
授業の概要	始めに、日本語の音声学の基礎的知識を習得することを目指す。日本語の音声の仕組みを学び、アナウンスメントの基礎を通して身につけたことが、日本語での口頭表現、プレゼンテーションの技法の向上につながることとなる。発声練習をはじめ、発音、アクセント、滑舌など、アナウンスの基本に触れる。その後、アナウンスメントの基礎となるニュース原稿を読んで実践に取り組む。その様子をVTR収録し、視聴して講評する形で授業を行う。
到達目標	ニュース原稿を読む技術を理解し、実践できること
授業計画	第１回　講義説明と発声練習 第２回　発声練習 第３回　日本語における各音節の発音 第４回　ガ行鼻濁音 第５回　母音の無声化 第６回　短文練習 第７回　アクセント 第８回　アクセント練習 第９回　ニュース原稿の読み方①（時事・政治） 第10回　ニュース②(時事・経済) 第11回　ニュース③（季節） 第12回　ニュース④（行事） 第13回　ショートニュースの読み方 VTR収録のための諸注意 第14回　VTR収録 第15回　VTR視聴と講評 （受講者数によって内容が前後したり、変更することがあります。）
授業外における学習（準備学習の内容）	後半は実践が主になるので、発表の前には必ず練習をしておくこと。練習は必ず本番をイメージして行うこと。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	実技40%、ミニレポート(授業の中で提出）60%、欠席は減点。遅刻は3回で欠席1回と同等扱い。 3分の2以上の出席と課題実技（VTR収録）がなければ、単位は認めない。
教科書	なし
参考書	なし

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	応用文章表現法A						
担当教員	岡田　裕子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	文章表現力の養成
授業の概要	日本語の文章表現についての知識と、その運用能力を高めるための方法を学ぶ。
到達目標	１．日本語文の構造、文体について基本的な知識を身につける。 ２．日本語表記、常用漢字、仮名づかい、外来語の表記、同音異義語、異字同訓などについての基本的な知識を身につける。 ３．実用文、ビジネス文書、私信などを作成する際の基本的ルールを知る。 ４．レポート・論文の書き方、原稿用紙の使い方などの基本的な知識を身につける。
授業計画	第1回　自己分析 第2回　漢字クイズ、日本語表記・文法の確認（１） 第3回　漢字クイズ、日本語表記・文法の確認（２） 第4回　漢字クイズ、敬語の使い方（１） 第5回　漢字クイズ、敬語の使い方（２） 第6回　漢字クイズ、手紙・はがきの書き方 第7回　漢字クイズ、メールの書き方 第8回　漢字クイズ、確認テスト 第9回　漢字クイズ、文章の流れをつかむ 第10回　漢字クイズ、文章の要約 第11回　漢字クイズ、レポートの書き方（１）テーマの絞り込み、資料の扱い方 第12回　漢字クイズ、レポートの書き方（２）構成 第13回　漢字クイズ、レポートの書き方（３）引用 第14回　漢字クイズ、レジュメの作成 第15回　プレゼンテーション、まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回漢字クイズを行う（勉強方法については第1回目の授業で指示）
授業方法	講義形式で説明したあと、実践練習（毎回授業の中で課題を課す）
評価基準と評価方法	課題７０％、プレゼンテーション１０％、確認テスト１０％、漢字クイズ１０％
教科書	適宜プリント配布
参考書	授業中に適宜指示

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	応用文章表現法B						
担当教員	岡田　裕子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	文章表現力の養成
授業の概要	日本語の文章表現についての知識を高めるとともに、その運用能力の向上を目的とする。
到達目標	１．論理的で明確な正しい文章表現力を養う。 ２．現実に目的を持った文章の内容を、確実に読み取る力を養う。 ３．事実を客観的に把握し表現する。 ４．文章を構成する文や段落の、文章内部での役割を確実に把握する力を養う。 ５．自分の知識や経験を生かして思考する力を養う。 ６．自分の意見を効果的に記述する能力を養う。 ７．手紙やビジネス文書などを、その目的に応じて的確に記述する力を養う。
授業計画	第1回　イントロダクション 第2回　漢字クイズ、論理的な説明（１） 第3回　漢字クイズ、論理的な説明（２） 第4回　漢字クイズ、論説文（１） 第5回　漢字クイズ、論説文（２） 第6回　漢字クイズ、新聞記事を用いた文章の読み取りと表現 第7回　漢字クイズ、新聞記事を用いた事実の把握と表現 第8回　漢字クイズ、社説を用いた文章の読み取りと比較 第9回　漢字クイズ、ビジネス文書の書き方（１） 第10回　漢字クイズ、ビジネス文書の書き方（２） 第11回　漢字クイズ、レポートの作成（１） 第12回　漢字クイズ、レポートの作成（２） 第13回　漢字クイズ、レポートの作成（３） 第14回　漢字クイズ、レポートの作成（４） 第15回　プレゼンテーション、まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回漢字クイズを行う（勉強方法については第1回目の授業で指示）
授業方法	講義形式で説明したあと、実践練習（毎回授業の中で課題を課す）
評価基準と評価方法	課題８０％、プレゼンテーション１０％、漢字クイズ１０％
教科書	適宜プリント配布
参考書	授業中に適宜指示

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	音韻・表記の基礎知識／国語学講読C						
担当教員	田附　敏尚						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	日本語の音韻・表記についての基礎的事項を学び、歴史的な背景も視野に入れて考える。
授業の概要	日本語の音韻について、音声学の知識も交えながら基礎知識を学んでいく。表記については、音韻との関連だけではなく、歴史的な背景は必須である。日本語にはどのような音声があり、どのように生み出されているか、また、それぞれの音声がどのように区別され、たがいにどのような関係にあるか考える。仮名遣いを中心に音声と表記との関係を考える。
到達目標	・音声と音韻の違いや日本語のアクセントを理解し、それらについて間違いを指摘したり説明できるようになる。 ・音韻と表記の歴史的な背景を理解し、それらについて間違いを指摘したり説明できるようになる。 ・表記の基礎的事項を理解し、現代日本語の表記について説明できるようになる。
授業計画	１）ガイダンス・音声と音韻１　音声と音韻の違い ２）音声と音韻２　母音と子音 ３）音声と音韻３　音節と拍(モーラ) ４）音声と音韻４　清音と濁音　拗音 ５）音声と音韻５　アクセント・イントネーション ６）音韻の変遷１　（小テスト）五十音図といろは歌、アヤワ行音の変遷　ハ行音の変遷 ７）音韻の変遷２　母音連続　音便など ８）表記の変遷１　日本での文字使用　漢字から仮名へ ９）表記の変遷２　仮名遣いの発生 10）現代の表記１　（小テスト）現代仮名遣　表記の原則 11）現代の表記２　表記のゆれ 12）現代の表記３　語種と表記　ローマ字 13）現代の表記４　漢字制限 14）現代の表記５　新しい文字表記 15）まとめ・期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	準備は特に必要ないが、授業が進むに従って、音韻・表記の問題を身近な例で確認することに努めてほしい。 小テストを行い、復習の助けにしたい。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価30% 小テスト・出席票（コメントシート）30%、期末試験40%
教科書	プリントを適宜配布するほか、プレゼンテーションソフトを用いて内容を提示する。 ※ノート必須です。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	華道史						
担当教員	小林　善帆						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	日本の伝統的文化としての華道
授業の概要	「いけばな」は現在にも生きる日本の芸術である。その起源は、仏に花を供える「供花」にあると言われる。平安時代には既に一輪挿しの例も確認されるが、「いけばな」の成立は室町後期のことで、京都六角の頂法寺の住持、池坊専応・専栄・専好の時代にその様式が確立する。安土桃山文化の中に花開いた「いけばな」の美は、江戸時代にさらに洗練され、池坊以外の多くの流派をも生み出し、家元制度も確立する。近代には折からの日本ブームに乗ってヨーロッパにも波及し、その文化は現在にも継承されることとなる。この「いけばな」の世界を、基本的な実技を交えながら学ぶ。
到達目標	華道の歴史と理論を基本的な実技を交え学ぶことから、日本文化の形成と本質を理解し、教養を深め、国内はもとより海外へ日本文化紹介を、おこなえるようにする。
授業計画	第一回　概説　日本の文化と華道 第二回　華道通史　用語解説 第三回　いけ花を取り巻く文芸 第四回　「たて花」と連歌・申楽 第五回　「たて花」と聞香 第六回　花の伝書１『仙伝抄』『専応口伝』 第七回　「抛入花」「茶花」 第八回　花の伝書２『立花大全』『立花時勢粧』 第九回　「文人生」中国瓶花の影響 第十回　花の伝書３『挿花百練』 第十一回　「盛花」以後のいけ花 第十二回　いけ花とジェンダー 第十三回　女学校といけ花 第十四回　植民地といけ花 第十五回　まとめ　質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容）	講義で興味を持ったことに関して、図書館で調べる。 各自、華道展に行ってみたり、部屋に花をいけてみたりする。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	レポート50%、平常点（小テストを含む）50%
教科書	適宜プリント配布
参考書	『「花」の成立と展開』小林善帆　和泉書院　2007年　ISBN978-4-7576-0441-4 『一八世紀日本の文化状況と国際環境』笠谷和比古編　思文閣出版　2011年　ISBN978-4-7842-1580-5 『花信のこころ　花と禅』珠寶　昭和堂　2009年　ISBN978-4-8122-0938-7

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	漢文を読むA						
担当教員	青木　稔弥						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	中国三千年の歴史と、それを受容した先人の工夫を理解する。
授業の概要	中国とその文学の歴史を把握するとともに、それを受容するための工夫、すなわち中国語を日本語の体系に組み入れた訓読法の諸相を学ぶ。中国文学の流れの大枠を捉えた上で、実際に文献を読む実践編に入り、中国文学の本質に迫ることができるようにする。
到達目標	漢文を通じて中国文化を正当に評価できる力を身に付ける。
授業計画	第１回：ガイダンス 第２回：中国三千年の歴史 第３回：神話の時代 第４回：諸子百家の時代 第５回：諸子百家の思想 第６回：諸子百家の文学 第７回：漢代の散文 第８回：漢代の韻文 第９回：唐代の散文 第１０回：唐代の韻文 第１１回：唐詩選の受容 第１２回：蒙求の時代 第１３回：四大奇書 第１４回：まとめと筆記試験 第１５回：総まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	現代の中国とその歴史について学習しておくことが肝要
授業方法	演習形式
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%
教科書	漢文学び方の基礎（改訂版） 近藤春雄著 武蔵野書院刊 ISBN：9784838606153 価格：￥630
参考書	授業中に紹介する

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	漢文を読むB						
担当教員	青木　稔弥						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	中国文化と日本文化の本当の理解
授業の概要	すでに身に付けた漢文訓読の基礎を確実なものとし、その土台に基づいて「蒙求」「史記」「論語」などの文献を、実際に読む。さまざまなジャンルの作品を数多く読むことで、理屈のみではなく、感覚として、先人が苦労して編み出してきた漢文訓読の偉大さを実感できるようにする。
到達目標	「蒙求」などの講読を通して、中国文化の理解や日本文化への影響を理解する。
授業計画	第１回：ガイダンス 第２回：漢文の作品についての概観 第３回：「蒙求」の講読 導入 第４回：「蒙求」の講読 展開 第５回：「蒙求」の講読 応用 第６回：「蒙求」の講読 まとめ 第７回：「史記」の講読 導入 第８回：「史記」の講読 展開 第９回：「史記」の講読 応用 第１１回：「論語」の講読 導入 第１１回：「論語」の講読 展開 第１２回：「論語」の講読 応用 第１３回：漢文の日本文学への影響 第１４回：まとめと筆記試験 第１５回：総まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	現代の中国とその歴史について詳しく学習しておくことが肝要
授業方法	演習形式
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%
教科書	プリントを使用する
参考書	授業中に指示する

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学を学ぶA						
担当教員	青木　稔弥						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	無頼派作家研究
授業の概要	太宰治が昭和23年の3月から5月にかけて執筆した小説を、直筆原稿→初出誌「展望」昭和23年6月号～8月号→初刊本『人間失格』の過程を追うとともに、映画化や漫画化の諸相、変容について考える。
到達目標	太宰治『人間失格』について考えることを通じて、近現代の文学への理解を深める。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　無頼派とは 第３回　太宰治のこと 第４回　『人間失格』「はしがき」 第５回　『人間失格』「第一の手記」導入 第６回　『人間失格』「第二の手記」発展 第７回　『人間失格』「第二の手記」導入 第８回　『人間失格』「第二の手記」発展 第９回　『人間失格』「第三の手記」「一」導入 第10回　『人間失格』「第三の手記」「一」応用 第11回　『人間失格』「第三の手記」「一」発展 第12回　『人間失格』「第三の手記」「二」導入 第13回　『人間失格』「第三の手記」「二」発展 第14回　『人間失格』「あとがき」と筆記試験 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	20世紀前半の小説類を数多く読むこと
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。
評価基準と評価方法	筆記試験50% 日常的な授業に対する取組状況等の評価50%
教科書	「太宰治全集　９」（ちくま文庫） ISBN:978-4-480-02259-2 JANコード:9784480022592
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学を学ぶB						
担当教員	青木　稔弥						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	織田作之助研究
授業の概要	昨年、生誕100年を迎えた織田作之助の作品のうち、特に『夫婦善哉』について考える。 近代文学全般について理解を深める一助となるだろう。
到達目標	影印（写真版）を活用し、執筆の現場を追体験することで、『夫婦善哉』正続の魅力を再発見する。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　織田作之助のこと 第３回　大阪の文学 第４回　ドラマ化の問題 第５回　映画化の問題 第６回　夫婦善哉の正編 第７回　正編　発展 第８回　正編　展開 第９回　続編の発見 第10回　大分の生活 第11回　続編　発展 第12回　続編　展開 第13回　夫婦善哉の結末 第14回　とりあえずのまとめと筆記試験 第15回　全体のまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	20世紀前半の小説類を数多く読むこと
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。
評価基準と評価方法	筆記試験50% 日常的な授業に対する取組状況等の評価50%
教科書	織田作之助『夫婦善哉　完全版』雄松堂書店 ISBN: 978-4-8419-0467-3
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学を読むA						
担当教員	青木　稔弥						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	犯罪の観点から小説を読む
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、泉鏡花「外科室」と志賀直哉「范の犯罪」の２作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を理解する。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　作家泉鏡花のこと 第３回　泉鏡花の作品について 第４回　泉鏡花「外科室」講読　導入 第５回　泉鏡花「外科室」講読　応用 第６回　泉鏡花「外科室」講読　発展 第７回　泉鏡花「外科室」講読　展開 第８回　泉鏡花「外科室」講読　まとめ 第９回　志賀直哉のこと 第１０回　志賀直哉「范の犯罪」講読　導入 第１１回　志賀直哉「范の犯罪」講読　応用 第１２回　志賀直哉「范の犯罪」講読　発展 第１３回　志賀直哉「范の犯罪」講読　展開 第１４回　２作品のまとめと筆記試験 第１５回　総まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要
授業方法	演習形式
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%
教科書	プリントを使用する
参考書	授業中に指示する

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学を読むB						
担当教員	青木　稔弥						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	探偵小説を読むこと
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、谷崎潤一郎「途上」と芥川龍之介「報恩記」の２作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を理解する。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　作家谷崎潤一郎のこと 第３回　谷崎潤一郎の作品について 第４回　谷崎潤一郎「途上」講読　導入 第５回　谷崎潤一郎「途上」講読　応用 第６回　谷崎潤一郎「途上」講読　発展 第７回　谷崎潤一郎「途上」講読　展開 第８回　谷崎潤一郎「途上」講読　まとめ 第９回　芥川龍之介のこと 第１０回　芥川龍之介「報恩記」講読　導入 第１１回　芥川龍之介「報恩記」講読　応用 第１２回　芥川龍之介「報恩記」講読　発展 第１３回　芥川龍之介「報恩記」講読　展開 第１４回　２作品のまとめと筆記試験 第１５回　総まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要
授業方法	演習形式
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%
教科書	プリントを使用する
参考書	授業中に指示

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶA／平安の文学A						
担当教員	片岡　利博						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	源氏物語を学ぶ　その１
授業の概要	『源氏物語』の内容と問題点について概説する。今期は、源氏物語第Ｉ部を取り扱う。
到達目標	源氏物語に親しみをもてるようになってほしいと思っている
授業計画	１　源氏物語５４帖の構成 ２　源氏物語第Ｉ部の構造 ３　源氏物語のテキスト ４　源氏物語の作者とその環境 ５　光る源氏の誕生 ６　藤壺物語 ７　若紫の登場 ８　六条御息所の物語 ９　朧月夜と須磨・明石 １０　雨夜の品定めと空蝉の物語 １１　夕顔の物語 １２　末摘花の物語 １３　玉鬘の物語 １４　雲居雁の物語 １５　第Ｉ部のまとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	予習の必要はない。登場人物の相互関係をしっかり把握できるよう、毎回の授業終了後に授業内容を復習すること。
授業方法	講義と講読
評価基準と評価方法	期末試験のみによる。
教科書	『ビギナーズクラシック　日本の古典　源氏物語』（角川ソフィア文庫、ISBN:978-4-04-357405-6）
参考書	授業時に指示する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶB／平安の文学B						
担当教員	片岡　利博						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	源氏物語を学ぶ　その２
授業の概要	『源氏物語』の内容と問題点について講義する。今期は、源氏物語第Ⅱ部・第Ⅲ部を取り扱う。
到達目標	源氏物語に親しみをもてるようになってほしいと思っている
授業計画	１　女三宮の降嫁 ２　紫上の苦悩 ３　柏木の恋 ４　落葉宮の物語 ５　紫上の死 ６　光る源氏の晩年 ７　薫と匂宮 ８　宇治八宮 ９　宇治の姫君たち １０　浮舟の登場 １１　浮舟の苦悩 １２　浮舟その後 １３　散逸した巻々 １４　源氏物語その後 １５　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	予習の必要はない。登場人物の相互関係をしっかり把握できるよう、毎回の授業終了後に授業内容を復習すること。
授業方法	講義と講読
評価基準と評価方法	期末試験のみによる。
教科書	『ビギナーズクラシック　日本の古典　源氏物語』（角川ソフィア文庫、ISBN:978-4-04-357405-6）
参考書	授業時に指示する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶC／近世の文学A						
担当教員	秋本　鈴史						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	近世演劇研究　時代物の浄瑠璃
授業の概要	江戸時代を代表する歌舞伎と人形浄瑠璃の歴史を考える。特に二つの芸能の交流に着目し、三百年以上の間、社会の最先端の文化の一つとして活動を継続してきた軌跡を考察する。浄瑠璃や歌舞伎という芸能が17世紀初め頃に誕生してから、さまざまな紆余曲折を経ながら江戸時代という時代の中で大衆の中に定着してゆく。本講義は、その過程について特に成立期から元禄・享保期までを中心に、主に人形浄瑠璃の盛衰を柱に検討を加える連続講義の一環である。本年度は、激動する正徳期に起こる新たな演劇界の動きについて考察する。前期は時代物を中心に、芸能が新たな展開を見せる時代の変化を作品を通して考察する。
到達目標	日本文化の代表の一つである浄瑠璃の基礎と概要を学ぶ。
授業計画	第１回　近世演劇史概説　歌舞伎編 第２回　近世演劇史概説　浄瑠璃編 第３回　正徳期の演劇界　実と虚の世界 第４回　国性爺の歴史　中国の戦乱と日本 第５回　『国性爺合戦』の概要１ 第６回　『国性爺合戦』の概要２ 第７回　『国性爺合戦』の概要３ 第８回　『国性爺合戦』の概要４ 第９回　『国性爺合戦』の概要５ 第10回　『国性爺合戦』の概要６ 第11回　『国性爺合戦』の概要７ 第12回　中国での『国性爺合戦』 第13回　歌舞伎の『国性爺合戦』 第14回　『国性爺合戦』のその後 第15回　まとめと筆記試験
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のＡＶセンターにあるＤＶＤで舞台映像を見て学ぶ必要がある。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	小テスト50%　期末テスト50%
教科書	プリントを配布。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶD／近世の文学B						
担当教員	秋本　鈴史						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	近世演劇研究　世話物の浄瑠璃
授業の概要	江戸時代を代表する歌舞伎と人形浄瑠璃の歴史を考える。特に二つの芸能の交流に着目し、三百年以上の間、社会の最先端の文化の一つとして活動を継続してきた軌跡を考察する。浄瑠璃や歌舞伎という芸能が17世紀初め頃に誕生してから、さまざまな紆余曲折を経ながら江戸時代という時代の中で大衆の中に定着してゆく。本講義は、その過程について特に成立期から元禄・享保期までを中心に、主に人形浄瑠璃の盛衰を柱に検討を加える連続講義の一環である。本年度は、激動の正徳期に起こる新たな演劇界の動きについて考察する。後期は世話物を中心に、芸能が新たな展開を見せる時代の変化を作品を通して考察する。
到達目標	日本文化の代表の一つである浄瑠璃の基礎と概要を学ぶ。
授業計画	第１回　正徳期の浄瑠璃界 第２回　時代物と世話物 第３回　歌舞伎の世話物と浄瑠璃の世話物 第４回　世話物の歴史 第５回　世話物の展開　『大経師昔暦』１ 第６回　世話物の展開　『大経師昔暦』２ 第７回　世話物の展開　『大経師昔暦』３ 第８回　世話物の展開　『大経師昔暦』４ 第９回　世話物の展開　『大経師昔暦』５ 第10回　世話物の展開　『大経師昔暦』６ 第11回　世話物の展開　『大経師昔暦』７ 第12回　世話物の展開　『大経師昔暦』８ 第13回　人形浄瑠璃の表現１ 第14回　人形浄瑠璃の表現２ 第15回　まとめと筆記試験
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のＡＶセンターにあるＤＶＤで舞台映像を見て学ぶ必要がある。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	小テスト50%　期末テスト50%
教科書	プリントを配布。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むA						
担当教員	田中　まき						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	『竹取物語』の講読
授業の概要	平安時代前期に成立した、現存最古の物語『竹取物語』を講読する。 『竹取物語』は「かぐや姫」の物語として名高いが、 羽衣伝説や竹取の翁伝説を中心に、求婚難題説話や地名起源伝説などを付加して構成され、 その他、漢籍、仏典との関係も注目される伝奇物語である。 また、五人の貴公子の失敗談には、貴族社会に対する風刺が込められており、興味深い。 本授業では、このような事柄に注目しながら、『竹取物語』の特質を探究する。 なお、一方的な講義ばかりではなく、一人一人が調べて来て、発表する演習形式も取り入れる。 さらに、古典語彙、文語文法などを身に付け、古文読解の能力を高めるよう読み進める。
到達目標	物語文学史における『竹取物語』の位置を説明できるようになる。 『竹取物語』のだいたいの口語訳が説明できるようになる。 古典語彙、文語文法などを理解し、古文読解の能力を高める。
授業計画	第１回　平安時代の物語文学についての概説 第２回　『竹取物語』についての概説 第３回　『竹取物語』の諸本（本文系統）についての講義 第４回　『竹取物語』の冒頭文についての講義 第５回　五人の貴公子の求婚談についての講読 第６回　「仏の御石の鉢」についての講読 第７回　「蓬莱の玉の枝」前半についての講読 第８回　「蓬莱の玉の枝」後半についての講読 第９回　「火鼠の皮衣」についての講読 第10回　「龍の頸の珠」についての講読 第11回　「燕の子安貝」についての講読 第12回　「かぐや姫の昇天」についての講読 第13回　「不死の薬」と「富士の山」についての講読 第14回　まとめと試験 第15回　『竹取物語』についてのまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	文語文法などの基礎的な知識を事前に学習しておく。 『竹取物語』の講読を通して、古文読解の力を養うよう復習する。
授業方法	講義と講読（受講者による担当発表）
評価基準と評価方法	試験（期末試験と小テスト）（70%）、担当発表の内容（20%）、平常点（10%）によって評価する。
教科書	竹取物語〔訂正増補版〕 松尾聰　校注解説 笠間書院 ４－３０５－００００５０－４
参考書	新編日本古典文学全集『竹取物語』片桐洋一（小学館） 新日本古典文学大系『竹取物語』堀内秀晃（岩波書店） 『竹取物語全評釈』（本文評釈篇）上坂信男（右文書院）

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むB						
担当教員	田中　まき						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	『大和物語』の講読
授業の概要	平安時代の歌物語である『大和物語』を講読する。 『大和物語』百七十三章段のうち、百四十章段あまりの前半は当代（平安時代前期）の人々の歌語りの集積であり、後半は古代の伝承を中心とした昔語りの集積である。 本授業では、それらの特質を考察するとともに、それぞれの章段に現れている、恋や友情、宮廷生活や夫婦のあり方、装束や住まいなど、様々な面から平安貴族の生活の様相を探究する。 なお、一方的な講義ばかりではなく、一人一人が調べて来て、発表する演習形式も取り入れる。 さらに、古典語彙、文語文法などを身に付け、古文読解の能力を高めるよう読み進める。
到達目標	平安時代における歌物語について説明できるようになる。 『大和物語』のだいたいの口語訳ができるようになる。 古文読解の能力を高める。
授業計画	第１回　平安時代の物語文学の概観についての講義 第２回　『大和物語』についての講義 第３回　第一段の講義 第４回　第二・三段の講読 第５回　第四・八段の講読 第６回　第二十五・二十七段の講読 第７回　第二十九・三十段の講読 第８回　第四十一・四十二段の講読 第９回　第四十五・五十八段の講読 第10回　第七十・七十六・七十七段の講読 第11回　第九十一・九十九段の講読 第12回　第百四十七段前半の講読 第13回　第百四十七段後半の講読 第13回　第百四十九段の講読 第14回　まとめと試験 第15回　『大和物語』についてのまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	文語文法などの基礎的な知識を事前に学習しておく。 『竹取物語』の講読を通して、古文読解の力を養うよう復習する。
授業方法	講義と講読（受講者による担当発表）
評価基準と評価方法	試験（期末試験と小テスト）（70%）、担当発表の内容（20%）、平常点（10%）によって評価する。
教科書	校注大和物語 柳田忠則編(新典社)　978-4-7879-0805-6
参考書	『大和物語全釈』森本茂（大学堂書店） 新編日本古典文学全集『竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』高橋正治（小学館） 『大和物語評釈』今井源衛（笠間書院） 講談社学術文庫『大和物語（上）・（下）』雨海博洋（講談社）

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むC						
担当教員	大坪　亮介						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	お伽草子を読む。
授業の概要	室町時代から江戸時代初期に作られ、広い階層に読み継がれてきたお伽草子を読む。 １、『一寸法師』…現代の我々にもなじみ一寸法師だが、お伽草子バージョンはこれと似ているようで異なる。その違いにも目を向け、読み進めていく。 ２、『さいき』…九州と都、異なる土地で二人の女性を愛した男。三人の男女がたどった道を追っていく。 ３、『横笛草子』…『平家物語』でもよく知られている滝口入道の話。長らく日本人に親しまれてきた悲恋の物語を読む。
到達目標	お伽草子作品を実際に原文で読み進めていくことで、日本古典文学を理解するための基礎を身につける。
授業計画	第1回　ガイダンス（授業の進め方、担当者の決定等） 第2回　お伽草子概説 第3回　一寸法師の誕生 第4回　『一寸法師』講読（1）都の一寸法師 第5回　『一寸法師』講読（2）鬼退治 第6回　『さいき』講読　（1）清水での出会い 第7回　『さいき』講読　（2）筑紫下り 第8回　『さいき』講読　（3）二人の妻 第9回　『さいき』講読　（4）発心 第10回　『横笛草子』講読（1）横笛と滝口の出会い 第11回　『横笛草子』講読（2）滝口の恋慕 第12回　『横笛草子』講読（3）滝口の発心 第13回　『横笛草子』講読（4）滝口を追う横笛 第14回　『横笛草子』講読（5）横笛の入水 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	事前に本授業で扱う作品を、現代語訳でも構わないので読んでおくこと。発表担当者は十分な時間をかけて準備すること。
授業方法	講読（受講生による発表）。
評価基準と評価方法	①平常点50%　②期末試験50%
教科書	プリント配布。
参考書	授業中適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むD						
担当教員	秋本　鈴史						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	浮世草子を読む
授業の概要	江戸時代に作られた、井原西鶴の『好色五人女』を読む。 巻１　「姿姫路清十郎物語」…姫路で起こった但馬屋の娘お夏と同家の手代清十郎との密通事件。 巻３　「中段に見る暦屋物語」…京都の大経師の手代茂右衛門と女房おさんとの姦通、駆落ち事件。
到達目標	現代の小説につながる日本近代小説の「源（みなもと）」を知るとともに、江戸時代の日本語の文体や文化を学ぶ。
授業計画	第１回　浮世草子について 第２回　「姿姫路清十郎物語」１ 第３回　「姿姫路清十郎物語」２ 第４回　「姿姫路清十郎物語」３ 第５回　「姿姫路清十郎物語」４ 第６回　「姿姫路清十郎物語」５ 第７回　江戸時代の恋 第８回　「中段に見る暦屋物語」１ 第９回　「中段に見る暦屋物語」２ 第10回　「中段に見る暦屋物語」３ 第11回　「中段に見る暦屋物語」４ 第12回　「中段に見る暦屋物語」５ 第13回　『好色五人女』の読み方 第14回　元禄文化概説 第15回　まとめと筆記試験
授業外における学習（準備学習の内容）	演習形式で行うため１回以上の発表が必須。担当範囲は受講生が決定後すぐに行うが、発表のための準備を行う必要がある。具体的には語釈や現代語訳など。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	発表50%　小テスト20%　期末テスト30%
教科書	プリントを配布。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	ことばの調べ方／国語学講読B						
担当教員	藪崎　淳子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	ことばに関するデータを集め、客観的に分析する方法を学ぶ。
授業の概要	ことばに関するデータを集め、客観的に分析する方法について学ぶ。文法・語彙・音声や、言語の運用といった言語の仕組みを理解するには、十分かつ整理されたデータと、それに対する適切な分析が必要である。この授業では、ことばに関するデータを集め、それを客観的に分析する具体的な方法について学ぶ。コーパスを利用した実例の収集、社会的な調査の方法、文献資料の利用、話者の直感に基づく調査、心理実験の方法などを取り上げる予定。最終的に、実際にテーマを設定し、データを集めて分析を加え、結果について授業またはレポートで報告を行う。
到達目標	調査方法について理解し、項目に応じてそれらを使い分けることによって、適切かつ十分な情報を収集できる。
授業計画	第１回　「調べる」とは 第２回　調査項目と文献 第３回　先行研究を調べる 第４回　用例収集の方法 第５回　用例の使い方－実例と作例－ 第６回　実践　先行論の検証①　先行研究の主張を理解する 第７回　実践　先行論の検証②　反例の有無を確かめる 第８回　実践　術語を調べる①　研究史を理解する 第９回　実践　術語を調べる②　用例に基づいて考える 第10回　実践　身近なことばの問題について考える 第11回　実践　文法形式について考える①　「～ている」内省に基づき仮説を立てる 第12回　実践　文法形式について考える②　「～ている」仮説を検証する 第13回　実践　文法形式について考える③　「～かもしれない」内省に基づき仮説を立てる 第14回　実践　文法形式について考える④　「～かもしれない」仮説を検証する 第15回　実践　待遇表現について考える
授業外における学習（準備学習の内容）	実践編では、個人、あるいはグループで課題について発表するため、調査とレジュメの作成が必要である。また、発表以外にも課題を与えることがある。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	発表５０％、レポート３０％、平常点２０％ 平常点２０％は受講態度、及び実践編における発表への質問・感想等によって評価するので、発表者以外も積極的な参加が求められる。
教科書	プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	茶道史						
担当教員	小林　善帆						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	日本の伝統的な文化としての茶道
授業の概要	茶をめぐる日本の文化は、日本文化史において独自の発展を遂げ、今日、日本の伝統文化を代表するもののひとつとなっている。中国唐代の喫茶文化の模倣から急速に貴族たちの間に広まった平安時代の茶。禅の実践の中で精神性を深めてゆくいっぽう、権力構造の中に取り込まれるようになっていった中世の茶。利休により至高の精神性を獲得するにいたった近世の茶。茶をめぐる文化は、それぞれの時代精神や周辺のさまざまな文化事象と密接な関わりを見せながら、展開してきた。本講義では、それぞれの時代に書き残された代表的な茶道関連文献を紹介しつつ、日本における茶の文化を歴史的に概観する。
到達目標	茶道の歴史と理論を基本的な実技を交え学ぶことから、日本文化の形成と本質を理解し、教養を深め、海外への日本文化紹介を、おこなえるようにする。
授業計画	第一回　概説　日本の文化と茶道 第二回　茶の湯と道具 第三回　茶の湯と美術館 第四回　茶室と露地 第五回　懐石料理とお菓子 第六回　茶の湯の花 第七回　茶会とそのマナー 第八回　茶の湯と聞香 第九回　茶の湯の歴史（一）千利休まで 第十回　茶の湯の歴史（二）江戸時代を中心に 第十一回　茶の湯の歴史（三）明治時代以降 第十二回　茶の湯とジェンダー 第十三回　女学校と茶の湯 第十四回　植民地と茶の湯 第十五回　まとめ　質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容）	講義で興味を持ったことを、図書館で調べる。茶の湯関係の美術館に行く。お茶会に参加する。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	レポート50%、平常点（小テスト含む）50%
教科書	適宜プリント配布
参考書	『「花」の成立と展開』小林善帆　和泉書院　2007年　ISBN978-4-7576-0441-4 『日本の近代化とプロテスタンティズム』上村敏文・笠谷和比古編　教文館　2013年　ISBN978-4-7642-7363-4

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	社会言語学演習A						
担当教員	田附　敏尚						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	地域方言調査の企画・立案・実施
授業の概要	社会言語学は、社会とのかかわりにおいて言語をとらえようとする研究分野である。この演習では、方言の動態を調査し、その結果をまとめることで、地域方言研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目指す。前期は、方言調査の実施にあたって、ことばの調査に関する企画・立案のしかたを学ぶ。夏休み中（9月上・中旬）に、方言調査を実施する。調査研究を通して、人間同士の円滑なコミュニケーションとは何か、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションとは何かについてもいっしょに考えてみたい。
到達目標	方言調査の全体像を把握し、実践できるようになる。
授業計画	第１回　方言を調査するということ 第２回　先行調査・研究の検討① 第３回　先行調査・研究の検討② 第４回　先行調査・研究の検討③ 第５回　先行調査・研究の検討④ 第６回　先行調査・研究の検討⑤ 第７回　先行調査・研究の検討⑥ 第８回　先行調査・研究の検討⑦ 第９回　先行調査・研究の検討⑧ 第10回　夏休み調査の準備・調査票の作成① 第11回　夏休み調査の準備・調査票の作成② 第12回　夏休み調査の準備・調査票の作成③ 第13回　夏休み調査の準備・調査票の作成④ 第14回　模擬調査 第15回　夏休み調査に向けて ※　９月初旬に方言調査を行なう。詳細は別途指示する。
授業外における学習（準備学習の内容）	特に調査票の作成など、授業外での準備が大切となるため、念入りに作成すること。
授業方法	講義、及び演習形式
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%とレポート40%
教科書	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	社会言語学演習B						
担当教員	田附　敏尚						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	方言調査結果の集計と分析
授業の概要	社会言語学は、社会とのかかわりにおいて言語をとらえようとする研究分野である。この演習では、方言の動態を調査し、その結果をまとめることで、地域方言研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目指ざす。後期は、夏休みに実施する方言調査結果の集計と分析の方法について、体系的に学ぶ。
到達目標	調査した結果から、データの整理と分析を経て、発表できるようになる。
授業計画	※　９月初旬に方言調査を行なう。詳細は別途指示する。 第１回　調査票の回収 第２回　調査結果の集計① 第３回　調査結果の集計② 第４回　調査結果の集計③ 第５回　調査結果の集計④ 第６回　調査結果の集計⑤ 第７回　調査結果の集計⑥ 第８回　調査結果の分析① 第９回　調査結果の分析② 第10回　調査結果の分析③ 第11回　調査結果の分析④ 第12回　調査結果の分析⑤ 第13回　調査結果の発表① 第14回　調査結果の発表② 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	結果発表に際しては準備が必要となる。念入りに準備すること。
授業方法	演習形式
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%とレポート40%
教科書	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道講義						
担当教員	花田　尊文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	書論と鑑賞
授業の概要	まず「書論」について解説・考察する。書論とは何か、どのような書論があるのか、その代表の一つである「書譜」の講読に重点をおいて学習する。 次に「書の鑑賞」について解説、考察する。実際に鑑賞体験を通じて鑑賞力を高め感性・知性を磨きたい。
到達目標	書論について理解（孫過庭『書譜』の論旨について学習、理解を深める）。 鑑賞の段階や方法を理解したうえで鑑賞力の向上を目指す（自らの眼で観、頭で考え、心で感じとる）。
授業計画	第1回：諸注意、伝達事項、シラバス配布と関連参考文献の紹介、授業の進め方の説明。書論について略説。 第2回：「書譜」講読。（第一篇　四賢の優劣論） 第3回：「書譜」講読。（第二篇　書の本質と価値、芸術論） 第4回：「書譜」講読。（第二篇　書の本質と価値、書体論・使転形質、五合五乖） 第5回：「書譜」講読。（第三篇　六朝以来の書論） 第6回：「書譜」講読。（第四篇　執使用転の説、王羲之の書の価値） 第7回：「書譜」講読。（第五篇　書表現の基盤と段階、意前筆後、三時三変） 第8回：「書譜」講読。（第五篇　書表現の基盤と段階、淹留勁疾・運筆論、様態九例） 第9回：「書譜」講読。（第六篇　書の妙境と批判、跋語） 第10回：「書の鑑賞」について解説。 第11回：鑑賞演習（行草書）、直観的鑑賞、分析的鑑賞。 第12回：鑑賞演習（行草書）、総合的鑑賞。 第13回：鑑賞演習（楷書）。 第14回：鑑賞演習（漢字仮名交じり書）、直観的鑑賞、分析的鑑賞。 第15回：鑑賞演習（漢字仮名交じり書）、総合的鑑賞。
授業外における学習（準備学習の内容）	書論（「書譜」講読）については予習必須。単にテキストを読むだけでなく、工具書・参考書などにより語意・文意の理解を深めるよう努力すること。
授業方法	講義、演習。
評価基準と評価方法	レポートの提出50%。平常点50%。
教科書	書名/中国法書ガイド 38『書譜』 著訳編註名/二玄社編 出版社/二玄社 ISBN/4544021383 必要に応じプリントを配布する。
参考書	「書譜」書論双書（田邊萬平著）日本習字普及協会 通解・孫過庭「書譜」（藤原楚水著）清雅堂 中国書論大系・第2巻「唐Ｉ」（P93～P177、書譜）二玄社

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（仮名A）						
担当教員	釣　年子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	書道実技<仮名A）
授業の概要	仮名は日本で生まれ育ち、平安王朝の美を代表するものの一つです。現代でもひらがながきれいに書けるだけで文字は随分印象が良くなります。単体から連綿まで、その雅な仮名の書き方の基礎を学びます。
到達目標	仮名の発生の歴史を理解し、仮名学習にに必要な執筆法の習得と仮名および変体仮名の運筆法の習得
授業計画	１）ガイダンス一仮名とは 　　ー仮名の歴史 ２）姿勢･執筆法･基本練習 「いろは」単体の練習　１ー「いろはにほへとちりぬるを」 ３）　２ー「わかよたれそつねならむ　う」 ４）　３ー「ゐのおくやまけふこえて　あ」 ５）　４ー「さきゆめみしゑひもせす」 ６）　５ー「いろは」全文　「とりなく・・・・」仮名字源 ７）比較書写一実用の仮名とは ８）変体仮名練習ー１ ９）変体仮名練習ー２ 10）仮名連綿練習ー１ 11）仮名連綿練習ー２ 12）仮名連綿練習ー３ー実用日常語の練習 13）仮名連綿練習ー４ー実用日常語　年賀状　お礼状など 14）俳句作品練習一芭蕉等 15）和歌作品練習一百人一首等
授業外における学習（準備学習の内容）	実技添削物の復習
授業方法	平常点２０％　課題・提出物５０％　作品提出３０％
評価基準と評価方法	提出作品、提出回数、授業への取り組みの姿勢を評価する。
教科書	手本　プリントを配布します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（仮名B）						
担当教員	釣　年子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	書道実技（仮名B）
授業の概要	仮名一応用編 書道実技（仮名Ａ）基礎の応用として、さまざまな書式を試みます。俳句、和歌の散らし書き構成法を学び、短冊、色紙、扇面などに挑戦します。美しい仮名の加工紙（料紙）も作ってみたい。
到達目標	俳句、和歌などの散らし書きを学ぶ 色紙、短冊、扇面など様々な書式を知る
授業計画	１）　散らし書き演習（１）「いろは」単体・連綿の復習 ２）　散らし書き演習（２）「和歌を書く」ー部分練習 ３）　色紙に書く（１）散らし書き演習「和歌を書く」ー連綿と構成の意味を考え、その方法を学ぶ ４）　色紙に書く（２）散らし書き清書「和歌を書く」ー墨量、濃淡を生かす ５）　短冊に書く（１）俳句または和歌を作ろう ６）　短冊に書く（２）短冊に書く形式を学ぶ ７）　短冊に書く（３）俳句または和歌の清書 ８）　大字の仮名を書こう（１）半切二分の一演習（イ） ９）　大字の仮名を書こう（２）半切二分の一演習（ロ） 10）　大字の仮名を書こう（３）半切二分の一清書 11）　料紙の年賀状を作ろう 12）　料紙の年賀状を書こう 13）　扇面－１ー扇面の様々な種類を知ろう 14）　扇面－２ー扇面に書く形式を学ぶ 15）　扇面ー３ー扇面の清書
授業外における学習（準備学習の内容）	なし
授業方法	実技演習
評価基準と評価方法	提出作品、授業への取り組みの姿勢を評価する
教科書	手本　プリントを配布します。授業中に紹介します
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（行書）						
担当教員	釣　年子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	行書の基本用筆を理解･習得した上で、行書の古典作品を臨書する。
授業の概要	行書の基礎を習得することを目的として、行書の用筆法を習得する。まず。点画の曲線化、点画の連続、点画の変化、点画の省略について学び、次に点画の方向の変化、点画の長短の変化について学ぶ。さらに筆順の変化、外形の変化について学んだ後、古典作品の鑑賞の仕方や臨書について学習した後、王羲之『蘭亭序』について学び、半紙や半切に臨書する練習を行う。
到達目標	行書の基本的な知識と技法を習得する。また、古典作品の鑑賞の仕方や臨書が出来るようになる。
授業計画	第１回：硬筆による行書の基礎を習得する。（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。） ～点画の曲線化、点画の連続、点画の変化、点画の省略について～ 第２回：硬筆による行書の基礎を習得する。（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。） ～点画の方向の変化、点画の長短の変化について～ 第３回：硬筆による行書の基礎を習得する。（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。） ～筆順の変化、外形の変化について。 第４回：毛筆による行書の基礎を習得する～点画の曲線化、連続、変化、省略について～ 第５回：毛筆による行書の基礎を習得する～点画の方向の変化、長短の変化について～ 第６回：毛筆によく行書の基礎を習得する～筆順の変化、外形の変化について～ 第７回：王羲之『蘭亭序』について・古典作品の鑑賞の仕方について・臨書について一王羲之羲『蘭亭序』より4文字臨書 第８回：半切作品のまとめ方について/王羲之『蘭亭序』より４文字臨書 第９回：半切作品のまとめ方について/王羲之『蘭亭序』より４文字臨書 第10回：王羲之のその他の作品について/王羲之『蘭亭序」より半切に１４文字臨書 第11回：王羲之以外の書家（中国）について、課題について/王羲之『蘭亭序』より半切に１４文字臨書 第12回：王羲之以外の書家（日本）について、/課題制作に向けての練習 第13回：課題作品制作①（半切２分の１） 第14回：課題作品制作②（半紙） 第15回：課題作品制作③（半切）、作品・レポート提出
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、次回授業ですることに目を通しておく。 授業後：授業内に出来なかった課題や技法を次回授業までに出来るようにしておく。
授業方法	講義と実技
評価基準と評価方法	平常点２０％　課題３０％　作品・レポート５０％
教科書	蘭亭叙（五種）[東晋・王羲之/行書]二玄社
参考書	必要に応じてプリントを配布します。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（硬筆）						
担当教員	釣　年子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	「書は人なり」という言葉があるように、字には書き手の人柄や性格などが表れる。言い換えれば、書いた字によって自分の印象が決まるのである。一見、きれいだけれど頼りない字。または、大雑把だけれど温かみの感じられる字など、様々である。そこでこの授業では、今一度自分の字を改めて見ることにより、自分の字の特徴を知り、より良い字が書けるようにするのがテーマである。
授業の概要	文字を正しく丁寧に、用途に応じて書けるように、そのポイントを習得し、集中力を身につける。 また、書くだけでなく草書体や旧字体・書写体が読めるようになる。基本事項として、常用漢字の筆順や部首名の確認もする。なお、授業は楷書体、（基本点画）の書き方、縦書き文書の書き方、横書き文書の書き方などについて学習した後、行書体の基本点画の書き方、縦書き、横書きの書き方を学習する。また、実用として、はがきの書き方、手紙の書き方、掲示文の書き方を学び、応用として硬筆作品の創作を行う。
到達目標	文字を正しく丁寧に、用途に応じて書くことが出来るように、そのポイントを理解し、習得する。また、書くだけでなく、草書体や旧字体、書写体が読めるようにする。加えて、常用漢字の正しい筆順と部首名も習得する。
授業計画	第１回：オリエンテーション（授業内容の説明や持ち物や注意事項の伝達）　鉛筆の持ち方と書くときの姿勢などの確認。自分の名前を各書体で書く。 第２回：ひらがなの成立と書き方について。ひらがなの字源を知る/楷書体に合うひらがなと行書体に合うひらがなの練習。 第３回：楷書体について一字形の整え方について/楷書体の基本用筆の練習（基礎編） 第４回：楷書体について一縦書きの文章の書き方について/楷書体の基本用筆の練習（応用編） 第５回：楷書体について一横書きの文章の書き方について/楷書体についてのまとめ 第６回：行書体について一行書体の基本用筆の練習（基礎編） 第７回：漢字の部分の名称について。常用漢字の筆順について/行書体の基本用筆の練習（応用編）： 第８回：草書体について一草書体を読み書きする/行書体についてのまとめ 第９回：実用書の書き方について一はがきの表裏の書き方について 第10回：実用書の書き方について一手紙文の書き方について（文章、用語、書き出し、結びの言葉） 第11回：実用書の書き方について一封筒の表裏の書き方について。掲示文の書き方について。 第12回：筆ペンによる実用書の練習 第13回：筆ペンによる作品制作（練習） 第14回：筆ペンによる作品制作（清書） 第15回：まとめとテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	硬筆には実技と理論が必要です。 実技演習と理論の予習復習などがあります。
授業方法	講義と実技
評価基準と評価方法	平常点２０％　課題３０％　試験５０％
教科書	日本習字普及協会「硬筆書写検定・３級合格のポイント」（1100円＋税） 適宜プリントを使用する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（硬筆）						
担当教員	釣　年子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	「書は人なり」という言葉があるように、字には書き手の人柄や性格などが表れる。言い換えれば、書いた字によって自分の印象が決まるのである。一見、きれいだけれど頼りない字。または、大雑把だけれど温かみの感じられる字など、様々である。そこでこの授業では、今一度自分の字を改めて見ることにより、自分の字の特徴を知り、より良い字が書けるようにするのがテーマである。
授業の概要	文字を正しく丁寧に、用途に応じて書けるように、そのポイントを習得し、集中力を身につける。 また、書くだけでなく草書体や旧字体・書写体が読めるようになる。基本事項として、常用漢字の筆順や部首名の確認もする。なお、授業は楷書体、（基本点画）の書き方、縦書き文書の書き方、横書き文書の書き方などについて学習した後、行書体の基本点画の書き方、縦書き、横書きの書き方を学習する。また、実用として、はがきの書き方、手紙の書き方、掲示文の書き方を学び、応用として硬筆作品の創作を行う。
到達目標	文字を正しく丁寧に、用途に応じて書くことが出来るように、そのポイントを理解し、習得する。また、書くだけでなく、草書体や旧字体、書写体が読めるようにする。加えて、常用漢字の正しい筆順と部首名も習得する。
授業計画	第１回：オリエンテーション（授業内容の説明や持ち物や注意事項の伝達）　鉛筆の持ち方と書くときの姿勢などの確認。自分の名前を各書体で書く。 第２回：ひらがなの成立と書き方について。ひらがなの字源を知る/楷書体に合うひらがなと行書体に合うひらがなの練習。 第３回：楷書体について一字形の整え方について/楷書体の基本用筆の練習（基礎編） 第４回：楷書体について一縦書きの文章の書き方について/楷書体の基本用筆の練習（応用編） 第５回：楷書体について一横書きの文章の書き方について/楷書体についてのまとめ 第６回：行書体について一行書体の基本用筆の練習（基礎編） 第７回：漢字の部分の名称について。常用漢字の筆順について/行書体の基本用筆の練習（応用編）： 第８回：草書体について一草書体を読み書きする/行書体についてのまとめ 第９回：実用書の書き方について一はがきの表裏の書き方について 第10回：実用書の書き方について一手紙文の書き方について（文章、用語、書き出し、結びの言葉） 第11回：実用書の書き方について一封筒の表裏の書き方について。掲示文の書き方について。 第12回：筆ペンによる実用書の練習 第13回：筆ペンによる作品制作（練習） 第14回：筆ペンによる作品制作（清書） 第15回：まとめとテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	硬筆には実技と理論が必要です。 実技演習と理論の予習復習などがあります。
授業方法	講義と実技
評価基準と評価方法	平常点２０％　課題３０％　試験５０％
教科書	日本習字普及協会「硬筆書写検定・３級合格のポイント」（1100円＋税） 適宜プリントを使用する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（作品制作）						
担当教員	花田　尊文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	自由制作。これまでの学習、経験を踏まえて、書作品を制作する。
授業の概要	自由制作。個人個人に対して必要な助言、指導を実施、完成へ導く。 手本なしで制作することは経験者にとっても容易ではない。学生にとってはハードルの高い作業である。 これを踏まえて、制作についての考え方、発想のヒント、資料の集め方、作業手順などプリントの配布も含めきめ細かく指導する。 まず、草稿の作成を目指す。この段階で必要に応じて文字資料や作品資料の提示など行う。 次に書き込みの段階になるが、この過程で作品としての完成度を上げるための方法や工夫について助言指導を行う。
到達目標	自らの着想にもとづき、字句、書体、書風、形式を考慮計画し実行する。 手本によらず自力で制作するプロセスを経験学習する。
授業計画	第1回：自由制作とその計画書作製について説明。様々な書の古典、その制作への応用について解説。 自由制作草稿作成準備指導。 第2回：自由制作準備。各自、参考古典、書跡の選択準備。 第3回：参考古典、書跡の選択決定。その臨書演習に入る。（半紙） 第4回：同前臨書演習（造形の特徴をよく観察する）。 第5回：同前臨書演習（線質の特徴をよく観察する）。 第6回：自由制作草稿確認、指導助言。 第7回：自由制作着手（草稿に拠ってまず書いてみる）。 第8回：自由制作演習（字形と運筆の検討）。 第9回：自由制作演習（全体構成を検討、修正）。 第10回：中間下見、指導助言。 第11回：自由制作演習（書風、線質について検討） 第12回：自由制作演習（統一と変化、気脈の貫通）。 第13回：自由制作演習（従前の総合、総まとめ）。 第14回：下見、講評。清書に向け指導助言。 第15回：自由制作演習、清書完成（予定）。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に取組むことを希望する。
授業方法	演習、指導解説。
評価基準と評価方法	作品の提出60%。平常点40%。
教科書	なし。
参考書	各自の選択による。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（草書）						
担当教員	花田　尊文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	書法基礎（草書）。
授業の概要	草書の基礎的書法の習得と理解を目指し、「書譜」の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて学習する。草書の字形は簡略ではあるが判読が難しい。この理由と事情について、その発生と成立の過程を解説する。これを踏まえた上で字形認識力の向上を目指す。一方、書法習得については草書書法に多用される代表的な筆遣いのトレーニングから入る。次に、速書について理解をはかり実践する。草書体は漢字仮名交じりの日本語表記の上でその速記性と美的調和において優れており日常筆記や手紙を書く場合大変有益な書体である。臨書演習を通して、書法習得とともに、速書と字形認識が表裏一体のものであることを理解し習熟へ導く。更に、半紙臨書を踏まえて半切臨書に取り組む。
到達目標	草書書法基礎（旋回、ジグザグ、振子、当り運動。単体、連綿草）。草書体字形認識力の向上。 書譜の条幅臨書作品。
授業計画	第1回：諸注意、伝達事項、シラバス配布とその説明、関連参考文献の紹介、演習に必要な用具材についての確認と予告。書法基礎（執筆法、腕法、姿勢、運筆）について解説。 第2回：草書とは何か？　その発生と成立の過程について解説。 臨書について解説。 第3回：書譜について解説。　運筆トレーニング後、「書譜」の臨書演習（半紙）に入る。 第4回：「書譜」臨書演習（一回目、テキストＰ２～）。 第5回：「書譜」臨書演習（二回目、テキストＰ10～）。 第6回：VTRによりこれまでの総括と今後への展望。草書の字形を覚える必要性について再確認。 「書譜」臨書演習（三回目、テキストＰ20～）。 第7回：草書字形一覧表配布（合理的に字形を覚える方法）解説。 第8回：「書譜」臨書演習（四回目、テキストＰ30～）。 第9回：「書譜」臨書演習（五回目、テキストＰ40～）。 第10回：「書譜」臨書演習（六回目、テキストＰ50～）。 第11回：「書譜」臨書演習（七回目、清書提出）。同条幅臨書について予告。 第12回：「書譜」条幅臨書演習（一回目、まず書いてみる）。 第13回：「書譜」条幅臨書演習（二回目、一字々々の特徴を詳細に検討する）。 第14回：「書譜」条幅臨書演習（三回目、文字の大小、字間行間にも注意する）。 第15回：「書譜」条幅臨書演習（四回目、全体の気脈を通す。清書提出）。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に臨書に取組むことを希望する。
授業方法	臨書演習中心。講義、解説も織りまぜる。
評価基準と評価方法	作品、レポートの提出50%。平常点50%。
教科書	書名/書譜(中国法書選No.38) 著訳編註名/孫過庭 出版社/二玄社ISBN/4544005388 必要に応じプリントを配布する。
参考書	書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社ISBN/4544014336

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書A						
担当教員	花田　尊文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）。
授業の概要	書写、書道についての一般的総合的な基本的教養について解説する。書写、書道教育においても日常生活においても正書体である楷書の重要性は論を待たない。これに鑑み楷書古典名跡の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて楷書書法の習得をめざして学習する。 毛筆の扱いに慣れるのが第一段階である。その為に執筆法、腕法、姿勢などの解説を理解した上で実践する。簡単な字例から次第に難易度を上げ習熟に導く。楷書書法の最要点である三過折の習得、字形の観察力と書美の鑑賞力の向上を目指して臨書に取り組む。 まず、半紙で２字、４字、６字書と書く字数を増やしながら単に一字一字に注目するだけではなく章法にも配慮するよう指導する。
到達目標	書写、書道の基本的知識、および文字・字体・書体・書風、表現について理解と習得。 楷書書法の基本技法の習得。筆遣いの要点、字形のとり方、章法（文字の大きさ、配字、配列など）について理解習得。 楷書の書美の理解と表現。
授業計画	第１回：演習に必要な用具用材についての確認と書写、書道のための参考文献の紹介。書写、書道の基本的知識、および文字・字体・書体・書風、表現について略説。 第２回：書写の基礎（執筆法、腕法、姿勢、運筆、三過折、刀法、字形のまとめ方）について解説。 第３回：書写演習（簡単な字例から）。 第４回：書写演習（前回の続き）、清書提出。 第５回：楷書の歴史と楷書古典名跡（「孔子廟堂碑」「九成宮醴泉銘」など）について解説。 第６回：臨書演習（主として唐楷　半紙2字書）。 第７回：臨書演習（半紙2、4字書）。 第８回：臨書演習（半紙4、6字書）。 第９回：臨書演習（半紙6字書）。VTRによりこれまでの総括と再確認。 第10回：臨書演習（「九成宮醴泉銘」「孔子廟堂碑」）、清書提出。 第11回：臨書演習（主として北碑　「張猛龍碑」）。 第12回：臨書演習（「張猛龍碑」「高貞碑」）。 第13回：臨書演習（「高貞碑」）。 第14回：臨書演習（「張猛龍碑」「高貞碑」）、清書提出。 第15回：書の定義、書道教育、書の鑑賞について講義。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に臨書に取組むことを希望する。
授業方法	実技演習中心、講義解説も織りまぜる。
評価基準と評価方法	作品、レポートの提出50%。平常点50%。
教科書	書名/九成宮醴泉銘(中国法書選No.31) 著訳編註名/欧陽詢 出版社/二玄社 ISBN/4544005310 書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336 必要に応じプリントを配布する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書A						
担当教員	花田　尊文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）。
授業の概要	書写、書道についての一般的総合的な基本的教養について解説する。書写、書道教育においても日常生活においても正書体である楷書の重要性は論を待たない。これに鑑み楷書古典名跡の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて楷書書法の習得をめざして学習する。 毛筆の扱いに慣れるのが第一段階である。その為に執筆法、腕法、姿勢などの解説を理解した上で実践する。簡単な字例から次第に難易度を上げ習熟に導く。楷書書法の最要点である三過折の習得、字形の観察力と書美の鑑賞力の向上を目指して臨書に取り組む。 まず、半紙で２字、４字、６字書と書く字数を増やしながら単に一字一字に注目するだけではなく章法にも配慮するよう指導する。
到達目標	書写、書道の基本的知識、および文字・字体・書体・書風、表現について理解と習得。 楷書書法の基本技法の習得。筆遣いの要点、字形のとり方、章法（文字の大きさ、配字、配列など）について理解習得。 楷書の書美の理解と表現。
授業計画	第１回：演習に必要な用具用材についての確認と書写、書道のための参考文献の紹介。書写、書道の基本的知識、および文字・字体・書体・書風、表現について略説。 第２回：書写の基礎（執筆法、腕法、姿勢、運筆、三過折、刀法、字形のまとめ方）について解説。 第３回：書写演習（簡単な字例から）。 第４回：書写演習（前回の続き）、清書提出。 第５回：楷書の歴史と楷書古典名跡（「孔子廟堂碑」「九成宮醴泉銘」など）について解説。 第６回：臨書演習（主として唐楷　半紙2字書）。 第７回：臨書演習（半紙2、4字書）。 第８回：臨書演習（半紙4、6字書）。 第９回：臨書演習（半紙6字書）。VTRによりこれまでの総括と再確認。 第10回：臨書演習（「九成宮醴泉銘」「孔子廟堂碑」）、清書提出。 第11回：臨書演習（主として北碑　「張猛龍碑」）。 第12回：臨書演習（「張猛龍碑」「高貞碑」）。 第13回：臨書演習（「高貞碑」）。 第14回：臨書演習（「張猛龍碑」「高貞碑」）、清書提出。 第15回：書の定義、書道教育、書の鑑賞について講義。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に臨書に取組むことを希望する。
授業方法	実技演習中心、講義解説も織りまぜる。
評価基準と評価方法	作品、レポートの提出50%。平常点50%。
教科書	書名/九成宮醴泉銘(中国法書選No.31) 著訳編註名/欧陽詢 出版社/二玄社 ISBN/4544005310 書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336 必要に応じプリントを配布する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書B						
担当教員	花田　尊文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	「書法の基礎と楷書A」を受け多様な楷書の書美と書法を学習。条幅作品。
授業の概要	「書法の基礎と楷書A」で未習の楷書古典の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて学習する。 次に、半紙書きの経験を元に条幅（半切）書きに取り組む。楷書による半切臨書作品の完成を目指す。
到達目標	臨書の意義と効用ついて理解。 楷書の書美、その諸相（時代的様式、作者の個性）について理解、書法についても習得。 小楷演習（三過折、字形、章法）。 条幅作品揮毫。
授業計画	第１回：「書法の基礎と楷書A 」で未習の唐代の楷書古典（褚遂良、顔真卿など）について略説。臨書演習に入る。 第２回：臨書演習（褚遂良）。 第３回：臨書演習（顔真卿）。 第４回：臨書演習（褚遂良、顔真卿）、清書提出。 第５回：楷書の特徴別の種類について解説。更に未習の古典について臨書演習（魏晋小楷、鍾繇・王羲之楽毅論）。 第６回：臨書演習（鍾繇）。 第７回：臨書演習（楽毅論）。 第８回：臨書演習（鍾繇、楽毅論）、清書提出。 第９回：楷書書法の応用と展開。小楷演習（美人董氏墓誌）、まず書いてみる。 第10回：臨書演習（一字々々の特徴を詳細に原本と比較検討する）。 第11回：臨書演習（文字の大きさ、字間行間に注意する）、清書提出。条幅臨書について予告、解説。 第12回：条幅臨書演習（手本配布）、まず書いてみる。 第13回：条幅臨書演習（一字々々の特徴を詳細に原本と比較検討する）。 第14回：条幅臨書演習（文字の大きさ、字間行間にも注意する）。 第15回：条幅臨書演習（止め、ハネ、払い、線の太細など細部の表現にも配慮する）、清書提出。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に臨書に取組むことを希望する。
授業方法	実技演習中心、講義解説も織りまぜる。
評価基準と評価方法	作品、レポートの提出50%。平常点50%。
教科書	書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336 書名/九成宮醴泉銘(中国法書選No.31) 著訳編註名/欧陽詢 出版社/二玄社 ISBN/4544005310 必要に応じプリントを配布する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書B						
担当教員	花田　尊文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	「書法の基礎と楷書A」を受け多様な楷書の書美と書法を学習。条幅作品。
授業の概要	「書法の基礎と楷書A」で未習の楷書古典の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて学習する。 次に、半紙書きの経験を元に条幅（半切）書きに取り組む。楷書による半切臨書作品の完成を目指す。
到達目標	臨書の意義と効用ついて理解。 楷書の書美、その諸相（時代的様式、作者の個性）について理解、書法についても習得。 小楷演習（三過折、字形、章法）。 条幅作品揮毫。
授業計画	第１回：「書法の基礎と楷書A 」で未習の唐代の楷書古典（褚遂良、顔真卿など）について略説。臨書演習に入る。 第２回：臨書演習（褚遂良）。 第３回：臨書演習（顔真卿）。 第４回：臨書演習（褚遂良、顔真卿）、清書提出。 第５回：楷書の特徴別の種類について解説。更に未習の古典について臨書演習（魏晋小楷、鍾繇・王羲之楽毅論）。 第６回：臨書演習（鍾繇）。 第７回：臨書演習（楽毅論）。 第８回：臨書演習（鍾繇、楽毅論）、清書提出。 第９回：楷書書法の応用と展開。小楷演習（美人董氏墓誌）、まず書いてみる。 第10回：臨書演習（一字々々の特徴を詳細に原本と比較検討する）。 第11回：臨書演習（文字の大きさ、字間行間に注意する）、清書提出。条幅臨書について予告、解説。 第12回：条幅臨書演習（手本配布）、まず書いてみる。 第13回：条幅臨書演習（一字々々の特徴を詳細に原本と比較検討する）。 第14回：条幅臨書演習（文字の大きさ、字間行間にも注意する）。 第15回：条幅臨書演習（止め、ハネ、払い、線の太細など細部の表現にも配慮する）、清書提出。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に臨書に取組むことを希望する。
授業方法	実技演習中心、講義解説も織りまぜる。
評価基準と評価方法	作品、レポートの提出50%。平常点50%。
教科書	書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336 書名/九成宮醴泉銘(中国法書選No.31) 著訳編註名/欧陽詢 出版社/二玄社 ISBN/4544005310 必要に応じプリントを配布する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	秋本　鈴史						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	近世文学の諸問題
授業の概要	江戸時代の浄瑠璃や歌舞伎などの演劇、浮世草子などの小説を中心に卒業論文の指導
到達目標	卒業論文を完成させること
授業計画	《前期》 第１回　卒業論文の意義と目的 第２回　卒業論文仮題目提出 第３回　構想発表（論文で取り上げようとする問題について）１ 第４回　構想発表２ 第５回　構想発表３ 第６回　構想発表４ 第７回　構想発表５ 第８回　論文の書き方と問題点１ 第９回　論文の書き方と問題点２ 第10回　論文の書き方と問題点３ 第11回　論文の書き方と問題点４ 第12回　論文の書き方と問題点５ 第13回　個別相談１ 第14回　個別相談２ 第15回　中間発表 《後期》 第１回　卒業論文の題目提出 第２回　個別指導１ 第３回　個別指導２ 第４回　個別指導３ 第５回　卒業論文の目次提出 第６回～第13回 　　個別指導 第14回　卒業論文提出の注意 第15回　口頭試問について
授業外における学習（準備学習の内容）	論文作成が目標であるから、そのための準備と学習が主になる
授業方法	演習
評価基準と評価方法	卒業論文による
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	池谷　知子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文を書く
授業の概要	日本語教育に関係するテーマで卒業研究を書くことを目指します。「敬語について」「子供の言語習得について」のような漠然としたテーマはできるだけ早い段階で興味の焦点を絞っておくことが大切です。まず、採取した用例をどのような視点、枠組みで分析するのかなど、論文を書くため技法を身につけながら、各自の卒業論文のテーマについて発表を行います。個別の指導はそれぞれ時間をとって行います。 ＜日本語教育に関係するテーマ＞ ・日本語教育教材研究 ・ 日本語の文法や語彙についての分析 ・ 日本語の誤用分析 ・ 話し言葉の機能分析（敬語・謝罪・褒めetc） ・ 非言語行動について（ボディーランゲージetc） ・ 年少者のための日本語教育 ・ 日本語学習者の観察やケーススタディ
到達目標	各自、テーマを見つけて卒業論文を書きあげることができる。
授業計画	＜前期＞ 第１回　卒業研究とは 第２回　各自のテーマについての発表と質疑応答１ 第３回　各自のテーマについての発表と質疑応答２ 第４回　各自のテーマについての発表と質疑応答３ 第５回　参考文献の検索方法 第６回　データ収集の方法 第７回　データの分析 第８回　テーマ決定 第９回　各自のテーマについて個別指導１ 第10回　各自のテーマについて個別指導２ 第11回　各自のテーマについて個別指導３ 第12回　各自のテーマについて個別指導４ 第13回　各自のテーマについて個別指導５ 第14回　各自のテーマについて個別指導６ 第15回　前期のまとめ ＜後期＞ 第16回　各自のテーマについての発表と質疑応答１ 第17回　各自のテーマについての発表と質疑応答２ 第18回　各自のテーマについての発表と質疑応答３ 第19回　各自のテーマについての発表と質疑応答４ 第20回　各自のテーマについての発表と質疑応答５ 第21回　各自のテーマについての発表と質疑応答６ 第22回　各自のテーマについて個別指導１ 第23回　各自のテーマについて個別指導２ 第24回　各自のテーマについて個別指導３ 第25回　各自のテーマについて個別指導４ 第26回　各自のテーマについて個別指導５ 第27回　各自のテーマについて個別指導６ 第28回　卒業論文発表会 第29回　卒業論文発表会 第30回　　論述口頭試問
授業外における学習（準備学習の内容）	自分のテーマについて、参考文献や論文を積極的に探してください。
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする
評価基準と評価方法	卒業論文70%　口頭試問30%

教科書	適宜ハンドアウトを配布
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	片岡　利博						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	中古・中世の日本文化
授業の概要	平安時代から南北朝ごろまでの日本の諸文化について研究しようとする学生に対し、研究指導をする。個別指導が主となるが、研究を進めていく上での心構えや、基本的な問題については講義形式をとることがある。後期の初めに中間発表会を予定している。
到達目標	卒業論文を完成させる。
授業計画	１　卒業研究について ２　研究上の一般的な注意事項 ３　参考文献についての概説 ４　テーマの設定 ５　テーマの検討 ６　研究の指導　１ ７　研究の指導　２ ８　研究の指導　３ ９　テーマの再検討 １０　研究の指導　４ １１　研究の指導　５ １２　研究の指導　６ １３　夏期休暇に向けての研究計画作成 １４　研究計画の再検討 １５　中間発表についての説明 １６　第１回中間発表　４人分 １７　前回発表についての質疑応答 １８　第２回中間発表　次の４人 １９　前回発表についての質疑応答 ２０　第３回中間発表　残りのメンバー ２１　前回発表についての質疑応答 ２２　中間発表に基づく見直し　１ ２３　中間発表に基づく見直し　２ ２４　中間発表に基づく見直し　３ ２５　論文執筆についての注意事項　文体と表記 ２６　論文執筆についての注意事項　参考文献の記載方法 ２７　論文執筆に関する質問対応　第１回 ２８　論文執筆に関する質問対応　第２回 ２９　口頭試問　５人 ３０　口頭試問　残りのメンバー
授業外における学習（準備学習の内容）	指導内容を踏まえて、各自が計画的に研究を進めていくこと。
授業方法	講義と個別指導
評価基準と評価方法	論文審査と口頭試問
教科書	特になし
参考書	個別に指示する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	田附　敏尚						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文を書く
授業の概要	方言学、社会言語学に関する研究をテーマとして卒業論文を執筆する学生に対し、その方法や手段についての助言をし、指導を行う。 　研究と名がつくからには、どんな小さなことでも「何か新しいもの」を見つけてほしい。その過程で情報を収集し、分析する能力も養われるはずである。
到達目標	各自のテーマに沿って卒業論文を書き上げること。
授業計画	（前期） 第１回　卒業論文とは 第２回　各自の研究テーマの発表と検討① 第３回　各自の研究テーマの発表と検討② 第４回　各自の研究テーマの発表と検討③ 第５回　先行研究の調べ方 第６回　データ収集の方法 第７回　テーマ決定 第８回　研究計画の提出と検討 第９回　各自のテーマについての個別指導① 第10回　各自のテーマについての個別指導② 第11回　各自のテーマについての個別指導③ 第12回　各自のテーマについての個別指導④ 第13回　各自のテーマについての個別指導⑤ 第14回　各自のテーマについての個別指導⑥ 第15回　夏期休暇中の作業計画の提出と検討 （後期） 第16回　夏期休暇中の作業進捗状況の報告 第17回　研究報告とそれに対する指導 第18回　中間発表会①（論文題目・目次の報告含む） 第19回　中間発表会② 第20回　中間発表に対する指導 第21回　各自のテーマについての個別指導① 第22回　各自のテーマについての個別指導② 第23回　各自のテーマについての個別指導③ 第24回　各自のテーマについての個別指導④ 第25回　各自のテーマについての個別指導⑤ 第26回　各自のテーマについての個別指導⑥ 第27回　論文提出要領の確認・口頭試問日程決定 第28回　提出直前相談 第29回　卒論発表会① 第30回　卒論発表会②
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の興味・関心に従いテーマを決めることになるが、それが卒業研究として成り立つのかを見極めることも必要になってくるため、出来るだけ早くテーマ候補を探しておくことが肝要である。 テーマが決まってからは、調査・分析はもちろんのこと、先行研究もよく読み込んでほしい。
授業方法	研究の進捗状況についての報告と指導
評価基準と評価方法	論文審査（口頭試問を含む）100%
教科書	

参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	田附　敏尚						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文を書く
授業の概要	日本語文法、語彙に関する研究をテーマとして卒業論文を執筆する学生に対し、その方法や手段についての助言をし、指導を行う。 研究と名がつくからには、どんな小さなことでも「何か新しいもの」を見つけてほしい。その過程で情報を収集し、分析する能力も養われるはずである。
到達目標	各自のテーマに沿って卒業論文を書き上げること。
授業計画	（前期） 第１回　卒業論文とは 第２回　各自の研究テーマの発表と検討① 第３回　各自の研究テーマの発表と検討② 第４回　各自の研究テーマの発表と検討③ 第５回　先行研究の調べ方 第６回　データ収集の方法 第７回　テーマの決定 第８回　研究計画の提出と検討 第９回　各自のテーマについての個別指導① 第10回　各自のテーマについての個別指導② 第11回　各自のテーマについての個別指導③ 第12回　各自のテーマについての個別指導④ 第13回　各自のテーマについての個別指導⑤ 第14回　各自のテーマについての個別指導⑥ 第15回　夏期休暇中の作業計画の提出と検討 （後期） 第16回　夏期休暇中の作業進捗状況の報告 第17回　研究報告とそれに対する指導 第18回　中間発表会①（論文題目・目次の報告含む） 第19回　中間発表会② 第20回　中間発表に対する指導 第21回　各自のテーマについての個別指導① 第22回　各自のテーマについての個別指導② 第23回　各自のテーマについての個別指導③ 第24回　各自のテーマについての個別指導④ 第25回　各自のテーマについての個別指導⑤ 第26回　各自のテーマについての個別指導⑥ 第27回　論文提出要領の確認・口頭試問日程決定 第28回　提出直前相談 第29回　卒論発表会① 第30回　卒論発表会②
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の興味・関心に従いテーマを決めることになるが、それが卒業研究として成り立つのかを見極めることも必要になってくるため、出来るだけ早くテーマ候補を探しておくことが肝要である。 テーマが決まってからは、調査・分析はもちろんのこと、先行研究もよく読み込んでほしい。
授業方法	研究の進捗状況についての報告と指導
評価基準と評価方法	論文審査（口頭試問を含む）100%
教科書	

参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	田中　まき						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	古典文学の研究
授業の概要	主に和歌の研究や、平安時代の物語研究をテーマにして、 卒業論文を執筆しようとする学生に対して、助言、指導をおこなう。
到達目標	古典文学を対象に、自分自身で研究、考察し、その成果を卒業論文としてまとめる。
授業計画	前期 第１回　卒業研究についての概説 第２回　予定している研究テーマについての発表 第３回　研究テーマについての検討① 第４回　研究テーマについての検討② 第５回　研究テーマに関する書籍、関係論文の探索 第６回　研究テーマに関する書籍、関係論文のまとめと評価① 第７回　研究テーマに関する書籍、関係論文のまとめと評価② 第８回　研究の進捗状況の報告① 第９回　研究の進捗状況の報告② 第10回　研究報告とそれに対する指導① 第11回　研究報告とそれに対する指導② 第12回　論文の書き方の指導① 第13回　論文の書き方の指導② 第14回　進捗状況の報告 第15回　夏休みの課題の申告 後期 第１回　夏休み期間の進捗状況の報告 第２回　研究報告とそれに対する指導 第３回　論文の題目・目次（構成）の報告 第４回　卒業論文の中間発表会① 第５回　卒業論文の中間発表会② 第６回　中間発表に対する指導 第７回　研究の方向性の確認 第８回　研究報告とそれに対する指導 第９回　進捗状況の報告発表 第10回　論文の題目・目次（構成）の確認 第11回　研究報告とそれに対する指導 第12回　研究のまとめ① 第13回　研究のまとめ② 第14回　口頭試問 第15回　卒業論文の成果報告会
授業外における学習（準備学習の内容）	テーマ周辺の論文を読み、各自のテーマについての調査、研究を進める。
授業方法	研究の進捗状況についての報告と討論 研究内容や進め方についてのアドバイスや指導
評価基準と評価方法	研究成果をまとめた論文（口頭試問を含む）90% 卒業研究に対する取り組み　10%
教科書	特になし。

参考書	授業中に提示する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	正しいことばづかい／国語学講読A						
担当教員	藪崎　淳子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	日本語の構造についての基礎的研究
授業の概要	話しことばコミュニケーションを充実させたい人のための講義である。現代は、デジタル化された情報が、メディアの枠を超えてやりとりされる時代である。そこで扱われる情報は、ますます高度で幅広いものとなっている。本講では、このような情報の最終表現のひとつとしての話しことばについて、具体的な課題を提示し、解説していく。「話して伝える」「読んで伝える」「聞いて伝える」ことが総合的に機能する、話しことばコミュニケーション能力の習得を目標とする。
到達目標	「話して伝える」「読んで伝える」「聞いて伝える」「書いて伝える」ことが総合的に機能する、話しことばコミュニケーション能力の習得
授業計画	第１回　「正しいことばづかい」とは 第２回　文法基礎 第３回　ことばの乱れ？　①「食べれる」「やらさせる」「切れれない」 第４回　ことばの乱れ？　②「やばくね」「すごいきれい」「やるっす」「彼みたくなりたい」 第５回　学校文法　語幹、形容動詞　「元気な子」「元気の源」 第６回　標準語と方言　「分からん」「大きいめ」「そうなっちゃいます」 第７回　復習と中間テスト 第８回　位相と表現　「わしはここで待っておるぞ」「首を取らせる」 第９回　敬語基礎①　敬語の種類としくみ 第10回　敬語基礎②　第二の敬語　やりもらい表現 第11回　敬語　文法上の問題　「拝見してください」 第12回　敬語　運用上の問題　「袋に入れて差し上げます」 第13回　敬語　美化語　「花に水をあげる」「お酒」 第14回　漢字　書き方、及び読み方とルビ　「迷」「遙」 第15回　復習と期末テスト
授業外における学習（準備学習の内容）	中間試験、期末試験の他、小テストを実施するので、復習をすること
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	平常点２０％、中間試験３０％、期末試験３０％、小テスト２０％
教科書	プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	多文化共生論A						
担当教員	辻野　理花						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	日本社会と多文化共存
授業の概要	比較文化にはさまざまな視点から考えていくことができるが、本講義では私たちの足元に存在する多様な文化について着目し、考察していく予定である。文化の多様性というのは、複数の社会の比較という方法を通してだけでなく、1つの社会の中にも存在する。そこで私たちが暮らす日本の社会にみられる多文化的な状況を知り、こうした状況の中での多様な文化との共生について考えていきたい。また比較対象として、日本以外の社会についても見ていく予定である。
到達目標	身近に存在する文化の多様性について理解を深める
授業計画	第1回イントロダクション 第2回日本社会における在住外国人の概要① 第3回日本社会における在住外国人の概要② 第4回日本社会における在住外国人の概要③ 第5回グローバリゼーションと日本社会 第6回法的制度① 第7回法的制度② 第8回在住外国人と労働① 第9回在住外国人と労働② 第10回在住外国人と労働③ 第11回在住外国人と暮らし① 第12回在住外国人と暮らし② 第13回在日外国人と教育① 第14回在日外国人と教育② 第15回まとめ 講義の進度によって、順序や内容を変更することもあります
授業外における学習（準備学習の内容）	日ごろから時事問題を意識して知る習慣を身につけてください
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	授業中にかいてもらう簡単なレポート、課題、学期末レポート、平常点で評価する
教科書	プリントを配布します。
参考書	授業中に紹介します。 多文化社会への道 著 駒井洋編（明石書店）

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	多文化共生論B						
担当教員	辻野　理花						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	ジェンダーの比較文化
授業の概要	比較文化にはさまざまな視点から考えていくことができる。文化の多様性というのは、複数の社会の比較という方法を通してだけでなく、1つの社会の中にも存在する。本講では、比較の視点で複数の社会の文化をジェンダーをキーワードに考察していく。映像資料も活用しながら、他者の目でとらえた文化、創りだされるイメージやそれがもたらす影響などについても見ていく予定である。
到達目標	文化の多様性について理解を深める
授業計画	第1回イントロダクション 第2回ジェンダーについて① 第3回ジェンダーについて② 第4回ジェンダーについて③ 第5回創られるジェンダーのイメージ① 第6回創られるジェンダーのイメージ② 第7回創られるジェンダーのイメージ③ 第8回女性と通過儀礼 第9回ジェンダーと性別役割分業① 第10回ジェンダーと性別役割分業② 第11回ジェンダーと性別役割分業③ 第12回女性と労働① 第13回女性と労働② 第14回女性と労働③ 第15回まとめ 講義の進度によって、順序や内容を変更することもあります 映像資料も必要に応じて活用しながら講義をします
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ視点から、みなさんが生活している社会について考えてみてください
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	授業中にかいてもらう簡単なレポート、課題、学期末レポート、平常点で評価する
教科書	プリントを配布します。
参考書	授業中に紹介します。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	第二言語習得論A／Studies　for　Second　Language　Acquisit						
担当教員	R. Harrison						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	日本語教師にとって必要な「第二言語習得論」について学ぶ。
授業の概要	第二言語としての日本語学習者の習得メカニズムを理解するための授業である。まず、子供のときにどのように母語を習得したか（第一言語習得）について概観する。次いで、第二言語習得理論について基本的な知識を学ぶ。学習者の日本語がどのように発達していくのか、書く発達段階における特徴を見ながら、言語習得のメカニズムを理解するのが目標である。
到達目標	語学教育の現場で起きる様々な現象やなぜ「第二言語習得論」が必要なのか、一緒に考えていく。
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：第二言語習得論とは 第3回：中間言語１学習者独自の言語体系） 第4回：中間言語２（中間言語の発達） 第5回：母語の影響１（母語の転移） 第6回：母語の影響２（言語転移） 第7回：習得順序 第8回：発達順序 第9回：インプット 第10回：アウトプット 第11回：文法を教える１（意識的な知識） 第12回：文法を教える２教室での学習の役割） 第13回：文法を教える３（教室でのインプット） 第14回：まとめと質疑応答 第15回：期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	予習
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性がある。これらの活動も評価対象になる。
評価基準と評価方法	授業への参加、課題、試験などの総合評価とする。 授業への授業参度・発言：態度:50%　期末試験あるいはレポート：50% 授業へ参加が70%に満たない場合は評価の対象としない。
教科書	「日本語を教えるための第二言語習得論入門」　監修：白井泰弘　著者：大関浩美　くろしお出版 ISBN978-4-87424-480-7
参考書	「日本語教育能力検定試験　完全攻略ガイド」著者：ヒューマンアカデミー　ISBN978-4-7981-1788-1 「バイリンガル教育の方法　12歳までに親と教師ができること」著者

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	第二言語習得論B／Studies　for　Second　Language　Acquisit						
担当教員	R. Harrison						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	日本語教師にとって必要な「第二言語習得論」について学ぶ。
授業の概要	年少者のバイリンガル、バイリテラル、バイカルチュルな発達過程や学習メカニズムについての理解を深める。まず、バイリンガリズムの基礎理論を学び、次いで、学校教育、家庭教育、社会教育としてのバイリンガル教育について実践的な面から考察する。まとめとして、認知論、習得論、言語政策の視点から母語教育、外国語教育、継承語教育のあり方について考察する。
到達目標	語学教育の現場で起きる様々な現象やなぜ「第二言語習得論」が必要なのか、一緒に考えていく。
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：インプット重視の指導 第3回：フォーカス・オン・フォーム 第4回：フィードバック 第5回：年齢の影響①（臨界期） 第6回：年齢の影響②（バイリンガリズム） 第7回：個人差の影響①（言語適性） 第8回：個人差の影響②（学習スタイル） 第9回：個人差の影響③（動機づけ） 第10回：個人差の影響④（学習ストラテジー） 第11回：教室で私たちにできること①（第二言語教育） 第12回：教室で私たちにできること②（習得は難しい？） 第13回：教室で私たちにできること③（教えたことはすぐ使う？） 第14回：まとめと質疑応答 第15回：レポート提出と質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容）	予習
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性がある。これらの活動も評価対象になる。
評価基準と評価方法	授業への参加、課題、試験などの総合評価とする。 授業への授業参度・発言：態度:50%　期末試験あるいはレポート：50% 授業へ参加が70%に満たない場合は評価の対象としない。
教科書	「日本語を教えるための第二言語習得論入門」　監修：白井泰弘　著者：大関浩美　くろしお出版 ISBN978-4-87424-480-7
参考書	「日本語教育能力検定試験　完全攻略ガイド」著者：ヒューマンアカデミー　ISBN978-4-7981-1788-1 「バイリンガル教育の方法　12歳までに親と教師ができること」著者：中島和子 ISBN4-7574-0282-1

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	中国書道史						
担当教員	花田　尊文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	中国の書道史
授業の概要	中国史の時代区分を追いながら書の歴史的変遷を講ずる、併せて政治・経済・思想や文化の事情を知り、歴史上の人物像についても解説しより深い理解を目指したい。テキストに沿って進行、より精度の高い文字資料の映像や実物資料の提示と解説も行う。
到達目標	漢字の発生からその変遷進化、書体の完成、書芸術の発生展開など、中国の書道史の基本的事項について理解習得する。
授業計画	第1回：諸注意、伝達事項、シラバス配布とその説明、工具書や関連参考文献の紹介。 中国書道史の導入として文字の始まり、つまり漢字創成の伝説と実際について解説。 第2回：殷、西周。（甲骨文、金文、列国体、石鼓文） 第3回：西周、東周。（列国体、石鼓文、簡牘書、帛書、篆書） 第4回：秦、前漢。（篆書、簡牘書、帛書、隷書） 第5回：後漢。（八分隷、漢碑） 第6回：三国、西晋。（残紙、楷書の定立、書人の登場） 第7回：東晋。（王羲之・王献之、書芸術の出現） 第8回：南北朝。（南朝＝羲之の継承、北朝＝北碑、龍門二十品など） 第9回：隋、唐。（墓誌銘、楷書の完成、初唐の三大家） 第10回：唐。（中唐・晩唐の書、顔真卿） 第11回：宋。（淳化閣帖、北宋の四大家、南宋・金の書） 第12回：元、明。（趙孟頫・復古主義、元末明初の書人） 第13回：明。（文人主義、中期の書道興隆、帖学、董其昌、明末ロマン主義） 第14回：清。（明末清初の書、帖学派・碑学派） 第15回：清。（揚州八怪、金石学、篆隷の書、篆刻）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業は中国史の時代区分を追いながら進める。よって、中学高校レベルの中国史の基礎教養を必要とするのでその復習をしておくこと。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	レポートの提出50%。平常点50%。
教科書	書名/中国書道史年表 著訳編註名/玉村霽山 出版社/二玄社 ISBN/4544012414 必要に応じプリントを配布する。
参考書	書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	地域文化論A						
担当教員	秋本　鈴史						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	日本の祭礼と芸能
授業の概要	この講義では、地域文化を知るためのアプローチのひとつとして、文化人類学のフィールドワークの手法を紹介する。それを踏まえ、日本の地域文化の事例をいくつか取り上げ、その歴史的、文化的、および社会的な側面について概観する。なお、講義はわかりやすいように、適宜、ビデオ映像やアニメーションなどを用いながら進めていく。今年度は「祭礼（お祭り）」を中心として、日本の歴史と芸能について考える。
到達目標	今も各地に残る「ふるさとの芸能」や「お祭り」の意味と意義を知るとともに、その歴史的な背景を学ぶ。
授業計画	第１回　古代の祭礼１　神と祭礼　神楽・巫女舞 第２回　古代の祭礼２　仏と祭礼　精霊会・来迎会 第３回　中世の祭礼１　中央から地方へ 第４回　中世の祭礼２　民衆の参加 第５回　中世の祭礼３　風流と盆踊り 第６回　中世から近世の祭礼１　祇園祭１ 第７回　中世から近世の祭礼２　祇園祭２ 第８回　中世から近世の祭礼３　芸能の民　いたこ・絵解き 第９回　中世から近世の祭礼４　芸能の民　平曲・幸若舞 第10回　中世から近世の祭礼５　猿楽から能へ　黒川能 第11回　近世の祭礼１　都市と芸能 第12回　近世の祭礼２　都市から地方へ　人形劇の系譜 第13回　近世の祭礼３　都市から地方へ　歌舞伎の系譜 第14回　近世の祭礼４　祝福芸　お笑いの系譜 第15回　まとめと筆記試験
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のＡＶセンターにあるＤＶＤで学ぶ必要がある。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	小テスト50%　期末テスト50%
教科書	プリントを配布
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	地域文化論B						
担当教員	秋本　鈴史						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	ミュージカルと日本演劇
授業の概要	地域文化論Ａに続いて「地域文化」について考える。私たちにとって身近な地域文化を通じて、地域文化・社会のあり方を考えていきたい。日本の事例のほか、海外の事例についても可能な限り取り上げて、多様な意味をもつ地域文化を考えてみたい。適宜、ビデオ映像などを用いながら授業をすすめていく予定である。今年度は特に「ミュージカル」を取り上げ、イギリス・アメリカの現代文化が、どのように日本文化に影響を与えているかを考える。
到達目標	ミュージカルという演劇の歴史、および日本への影響を学ぶ。
授業計画	第１回　日本の近代演劇史の概観 第２回　オペラからミュージカルへ－ミュージカルの誕生－ 第３回　アメリカでのショービジネスの成立とミュージカル 第４回　「オクラホマ」から「サウンド・オブ・ミュージック」 第５回　ロジャースとハマーシュタイン（１９４０～５０年代） 第６回　「ウエスト・サイド物語」 第７回　「マイ・フェア・レディ」 第７回　ハロルド・プリンスとジェームス･ロビンスとソンドハイムの時代（１９６０年代） 第９回　ロンドンミュージカル「コーラスライン」と「キャッツ」 第10回　「オペラ座の怪人」 第10回　アンドリュー・ロイド・ウェーバー（１９７０～８０年代） 第11回　ディズニーミュージカル「ライオンキング」 第12回　アメリカの苦悩「レント」とラーソン（一九九〇年代以降） 第13回　日本でのミュージカルの上演 第14回　現在のミュージカル・他の演劇との関係 第15回　まとめと筆記試験
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のＡＶセンターにあるＤＶＤで舞台映像を見て学ぶ必要がある。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	小テスト50%　期末テスト50%
教科書	プリントを配付
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日韓対照言語学A／日朝対照言語学A						
担当教員	金　美善						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	日韓対照言語学
授業の概要	韓国語は日本語と統語構造が似ている類似点の多い言語とされるが、音韻構造や表現、言語行動の面では相違点の多い言語でもある。 この授業では、日本語と韓国語の類似点や相違点について、韓国語の構造を具体的に学習しながら両言語の対照を行う。
到達目標	基礎的な韓国語の文の構造を知ることを目標とします
授業計画	１．オリエンテーション：韓国語ってどんな言語？ ２．韓国語の母音、日本語の母音 ３．韓国語の子音、日本語の子音 ４．韓国語の音節構造、日本語の音節構造 ５．韓国語のパソコン入力 ６．韓国語の名詞文、日本語の名詞文１ ７．韓国語の名詞文、日本語の名詞文２ ８．韓国語の用言文、日本語の用言文１ ９．韓国語の用言文、日本語の用言文２ 10. いろんな言語の数え方 11. 韓国の敬語体系、日本語の敬語体系 12. 調べてみよう、日本語と他言語の類似点・相違点１ 13. 調べてみよう、日本語と他言語の類似点・相違点２ 14. 調べてみよう、日本語と多言語の類似点・相違点３ 15. まとめ＋期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の内容をまとめて提出する課題があります。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点 30% 課題発表 30% 期末試験 40%
教科書	プリントを用意します
参考書	日韓・韓日辞書

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日韓対照言語学B／日朝対照言語学B						
担当教員	金　美善						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	日韓対照言語学
授業の概要	韓国語は日本語と統語構造が似ている類似点の多い言語とされるが、音韻構造や表現、言語行動の面では相違点の多い言語でもある。この授業では、日本語と韓国語の類似点や相違点について、韓国語の構造を具体的に学習しながら両言語の対照を行う。具体的には、名詞文、名詞文の否定と尊敬、用言文、数詞、疑問文、尊敬表現、文体などについて考える。
到達目標	韓国語のいろんな文の構造を知り、辞書を使って簡単な文の内容が翻訳できることを目標とします。
授業計画	１．オリエンテーション：韓国語の構造について ２．韓国語の名詞文、日本語の名詞文 ３．韓国語否定表現、日本語の否定表現 ４．韓国語の尊敬表現、尊敬表現 ５．韓国語の用言文、日本語の用言文 ６．韓国語の数詞、日本語の数詞 ７．韓国語の疑問文、日本語の疑問文 ８．韓国語の尊敬表現、日本語の尊敬表現 ９．韓国語の文体、日本語の文体 10. 韓国語と日本語の喜怒哀楽の言語表現１ 11. 韓国語と日本語の喜怒哀楽の言語表現２ 10. 韓国語と日本語の親疎関係の言語表現 13. 調べてみよう、日本語と韓国語の類似点・相違点１ 14. 調べてみよう、日本語と韓国語の類似点・相違点２ 15. 調べてみよう、日本語と韓国語の類似点・相違点３
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の内容をまとめて提出する課題があります。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点 30% 課題発表 30% 期末レポート 40%
教科書	プリントを用意します
参考書	日韓・韓日辞書

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学A						
担当教員	古川　典代						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	日本語と中国語の対照研究
授業の概要	日本語と中国語を対照することにより、両者の差異と共通点について考える。 日本語の中に見られる中国語の影響や、中国語への日本語の逆輸入などを把握し、同時代の２言語を比較対照しながら日本語を客観的に捉える視点を育成する。 また、日本語教育の観点から、学習者の母語（中国語）を把握することで、学習者の母語の干渉についても理解を深める。
到達目標	中国語の特性を認識し、日中両言語間の類似性と相違性を把握する。
授業計画	①中国語の特性「語順」「人称代名詞」「指示代名詞」 ②日中の特性「格」「名詞句の階層」 ③日中の特性「他動性」「二項述語階層」「所有傾斜」 ④日本語に見られる中国語の影響 ⑤日中同形異義語 ⑥中国における日本語の誤用例 ⑦発音面における難易度、第一外国語の干渉 ⑧中国人が日本語学習時に直面する問題点 ⑨日中文化差異による言語干渉 ⑩日中映画ドラマ字幕翻訳 ⑪まとめ ⑫グループごとにテーマを決めて研究発表 ⑬グループごとにテーマを決めて研究発表 ⑭グループごとにテーマを決めて研究発表 ⑮総括
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容について、感想や疑問点を提出。次回時に質問に対する回答などのコメントを発表する。
授業方法	講義（グループ発表を含む）
評価基準と評価方法	平常点50%　　発表30%　　レポート20%
教科書	毎回プリントを配布
参考書	『日中対照言語学研究論文集』大河内康憲　くろしお出版

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学B						
担当教員	古川　典代						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	日本語と中国語の対照研究
授業の概要	日本語と中国語を対照することにより、両者の差異と共通点について考える。 前期で日中対照言語学の概要を把握したので、後期は代表論文を通して日中対照言語学の研究状況を把握する。 また、日本語教育の観点から、学習者の母語（中国語）干渉について誤用例分析を行う。
到達目標	日中対照言語学Aの基礎のもと、中国語母語話者への日本語教育時における母語の干渉について理解し、 教授効果をあげる工夫ができるようにする。
授業計画	①中国語指示詞の遠近対立について ②三人称代名詞の対象研究 ③日中両国語における数量表現と名詞 ④日本語と中国語の同形語 ⑤日本語名詞のトコロ（空間）性―中国語との関連で一 ⑥中国人日本語学習者の誤用分析 ⑦まとめ・小テスト ⑧テーマを決めてグループディスカッション ⑨グループによる研究発表 ⑩グループによる研究発表 ⑪日中両国の若者言葉比較対照 ⑫日中両国のタブーの違い ⑬日中両国の色彩感覚の違い ⑭グループごとにテーマを決めてレポートをまとめる ⑮発表
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容について、感想や疑問点を提出。次回時に質問に対する回答などのコメントを発表する。
授業方法	講義（グループ発表を含む）
評価基準と評価方法	平常点50%　　発表20%　　レポート30%
教科書	毎回プリントを配布
参考書	『日中対照言語学研究論文集』大河内康憲　くろしお出版

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日英対照言語学A						
担当教員	里井　真理子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	日本語と英語の対照研究
授業の概要	日本語と英語について歴史や文法など、いろんな側面を対照研究することで、両者の差異と共通点を見ていきます。また日本語学習者、英語学習者にとって習得することが難しいと言われる「日本語らしさ」「英語らしさ」についても考えていきます。
到達目標	日本語と英語の対照研究における基本的な事柄を学ぶことができます。
授業計画	第１回　ガイダンス　英語と日本語の違いについて 第２回　言語の歴史（１）　英語編 第３回　言語の歴史（２）　日本語編 第４回　言語の語彙（１）　英語編 第５回　言語の語彙（２）　日本語編 第６回　言語の語順（１）　英語編 第７回　言語の語順（２）　日本語編 第８回　言語の音韻体系（１）　英語編 第９回　言語の音韻体系（２）　日本語編 第10回　言語の文字体系（１）　英語編 第11回　言語の文字体系（２）　日本語編 第12回　丁寧表現（１）　英語編 第13回　丁寧表現（２）　日本語編 第14回　言語の方言（１）　英語編 第15回　言語の方言（２）　日本語編
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：配布プリントを読んできてください。 授業後学習：授業内容を簡単にまとめておいてください。復習テストの勉強にもなります。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	授業時の活動（50%）＋小テスト（30%）＋レポートテスト（20%）
教科書	適宜プリント配布
参考書	『日本語教師のための　言語学入門』小泉　保著、大修館書店　ISBN4-469-22091-4　等

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日英対照言語学B						
担当教員	里井　真理子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	日本語と英語の対照研究
授業の概要	日本語と英語について歴史や文法など、いろんな側面を対照研究することで、両者の差異と共通点を見ていきます。また日本語学習者、英語学習者にとって習得することが難しいと言われる「日本語らしさ」「英語らしさ」についても考えていきます。
到達目標	日本語と英語の対照研究における基本的な事柄を学ぶことができます。
授業計画	第１回　言語と社会階級（１）　英語編 第２回　言語と社会階級（２）　日本語編 第３回　人種・民族による語差 第４回　性別による語差（１）　英語編 第５回　性別による語差（２）　日本語編 第６回　年齢による語差（１）　英語編 第７回　年齢による語差（２）　日本語編 第８回　ことばの持つイメージ 第９回　言語接触（１）　英語編 第10回　言語接触（２）　日本語編 第11回　非言語伝達（１）　英語編 第12回　非言語伝達（２）　日本語編 第13回　言語と文化（１）　英語編 第14回　言語と文化（２）　日本語編 第15回　総まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：配布プリントを読んできてください。 授業後学習：授業内容を簡単にまとめておいてください。復習テストの勉強にもなります。
授業方法	講義、実技
評価基準と評価方法	授業時の活動（50%）＋小テスト（30%）＋レポートテスト（20%）
教科書	適宜プリント配布
参考書	『日本語教師のための　言語学入門』小泉　保著、大修館書店　ISBN4-469-22091-4　等

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語・日本文化学外研修A						
担当教員	池谷　知子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	日本語を使って世界と交流する
授業の概要	日本語学習者の中で日本語や日本文化がどのように捉えられているのかを体験する。日本語教育の実践的な場として、HIA（兵庫県国際交流協会）が行う「日本語教育実践講座」、協定校での海外教育実習、地元における日本語ボランティア、協定校から本学に来ている留学生に対する日本語ボランティア、などがある。これらのいずれかに参加し、外国語として日本語を学んでいる現場を体験し、日本語を通して世界に触れる。
到達目標	①　外国語として日本語を見ることができる。 ②　日本語を使って、日本語学習者と交流することができる。
授業計画	第１回　　講義：本授業のテーマおよび学外研修についてのガイダンス 第２回　　講義：「学外研修①」についての説明 第３回　「学外研修①」 第４回　　講義：「学外研修①」の振り返りとまとめ 第５回　　講義：「学外研修②」についての説明 第６回　「学外研修②」 第７回　　講義：「学外研修②」の振り返りとまとめ 第８回　　講義：総まとめ ※第１・２・４・５・７・８回は講義 第３・６回は学外研修（授業時間外の研修）
授業外における学習（準備学習の内容）	復習（研修で見聞したことの振り返り）が大切になってくるため、研修の後は、忘れないうちにノートを取るなど、復習のための作業は怠らないようにしてほしい。
授業方法	講義および学外研修
評価基準と評価方法	各回の学外研修後のレポート30%×2回=60% 最終レポートによって評価する。40%
教科書	プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語・日本文化学外研修B						
担当教員	田中　まき						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	王朝びとの生活と文化の探究
授業の概要	古典文学にゆかりの地を訪ねて、王朝びとの生活と文化の様相を探究する。 具体的には、京都御所や京都の寺社を訪ねて、王朝びとの住まいについて考察し、京都風俗博物館などを訪ねて、王朝人の装束について学習する。
到達目標	王朝びとの生活と文化について深い理解を持つ。
授業計画	第１回　　講義：本授業のテーマおよび学外研修についてのガイダンス 第２回　　講義：王朝びとの住まいと装束について（「学外研修①」についての説明） 第３回　　学外研修①：京都御所・京都風俗博物館・廬山寺など 第４回　　講義：「学外研修①」の振り返りとまとめ 第５回　　講義：古典文学にゆかりの地について（「学外研修②」についての説明） 第６回　　学外研修②：宇治源氏物語ミュージアム・宇治上神社・平等院など 第７回　　講義：「学外研修②」の振り返りとまとめ 第８回　　講義：実地踏査によって、探究したことについてのまとめ 第１・２・４・５・７・８回は講義 第３・６回は学外研修（授業時間外の研修）
授業外における学習（準備学習の内容）	王朝びとの生活と文化に関する本を読んだり、映像を見たりして、理解を深めるための努力をする。
授業方法	講義と学外研修
評価基準と評価方法	レポート　50% 授業・学外研修に対する取り組み　50%
教科書	プリントを使用する。
参考書	適宜提示する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語学を学ぶA						
担当教員	池谷　知子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	ことばから見る私たちの行為・思考・文化 〜外国人のとまどう日本語〜
授業の概要	いくつかの語の意味の共通点や、意味の来歴を探ると、その意味領域を日本語がどのように捉えてきたかということがわかる。また、ある行為を名づける語の意味をさかのぼって調べてみることによって、その行為が日本語話者にどのように捉えられてきたのか、ヒントを得られることがある。「うれしい・たのしい」、「ほめる・しかる・おこる」「わびる・あやまる」などを例として、それぞれの意味・意味の変遷、おなじ意味領域に属する動詞の共通点を考え、日本語話者の物事の捉え方を読み解いてゆく。
到達目標	①　ことばの中につまっている日本の文化や思考に気がつくことができる。 ②　辞書に載っていない、似たような言葉の使い分けを自分なりに説明することができる。
授業計画	第1回　この授業のオリエンテーション　〜どうして「風邪をひく」なのか？〜 第2回　「うれしい」と「たのしい」の違い 第3回　「重さ」と「重み」の違い 第4回　「人々」と「人たち」の違い 第5回　「事故があったから」と「事故があったために」の違い 第6回　「しかる」と「おこる」の違い 第7回　「わびる」「あやまる」　の違い 第8回　「〜のそば」「〜の隣」「〜の横」の違い 第9回　「感謝する」と「ねぎらう」の違い 第10回　「命令する」と「禁止する」の違い 第11回　「勧める」「誘う」「断る」の違い 第12回　「結構」はどんなことばか。 第13回　「立ちづめ」「立ちどおし」「立ちっぱなし」の違い 第14回　「本を閉じてください」は言えるのに「窓を閉じてください」は言えないのか 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	課題の小レポートを仕上げる。 学んだことを、だれかに話してあげること。
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	授業への貢献度　50%　提出物　25%　レポート25%
教科書	プリント配布
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語学を学ぶB						
担当教員	池谷　知子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	ことばから見る私たちの行為・思考・文化 〜外国人のとまどう日本語〜
授業の概要	いくつかの語の意味の共通点や、意味の来歴を探ると、その意味領域を日本語がどのように捉えてきたかということがわかる。また、ある行為を名づける語の意味をさかのぼって調べてみることによって、その行為が日本語話者にどのように捉えられてきたのか、ヒントを得られることがある。「愛する・恋する・ほれる」、「耐える・忍ぶ・我慢する」「笑う・笑む・ほほ笑む」「説く・述べる・話す」などを例として、それぞれの意味・意味の変遷、おなじ意味領域に属する動詞の共通点を考え、日本語話者の物事の捉え方を読み解いてゆく。
到達目標	①　ことばの中につまっている日本の文化や思考に気がつくことができる。 ②　辞書に載っていない、似たような言葉の使い分けを自分なりに説明することができる。
授業計画	第1回　この授業のオリエンテーション　〜どうして「嘘をつく」なのか？〜 第2回　「愛する」「恋する」「ほれる」の違い 第3回　「さびしい」と「さみしい」の違い 第4回　「ビジュアル系」と「ヴィジュアル系」の違い 第5回　笑う・笑む　①笑う 第6回　笑う・笑む　②笑む・ほほえむ・ほくそえむ 第7回　たえる・がまんする　①たえる・しのぶ 第8回　たえる・がまんする　②念ず・我慢する 第9回　たえる・がまんする　③がんばる・しんぼうする・しのぐ 第10回　「説く」「述べる」「話す」の違い 第11回　「聞く」「たずねる」の違い 第12回　「うらやむ」「ねたむ」の違い 第13回　「〜人」はどんな時にニンと読み、どんな時に「ジン」と読むのか。 第14回　「何」はどんな時に「なに」と読み、どんな時に「なん」と読むのか。 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	課題の小レポートを仕上げる。 学んだことを、だれかに話してあげる。
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	授業への貢献度　50%　提出物　25%　レポート25%
教科書	プリント配布
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育演習A						
担当教員	池谷　知子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	日本語教育実習
授業の概要	日本語教育の模擬実習を行う。初級教材「みんなの日本語」の教材研究のあと、模擬授業のためなさまざまな教授法について概説する。また、導入、ドリルの種類、パターンプラクティス、文型練習、コミュニカティブな練習など授業の流れにそって、その具体的な技術、学習者への対応など実習に必要な技術の指導をし、教案作成などの実習のための下準備をし、模擬授業を実施する。授業外ではアメリカ、アジアの協定校からの語学留学生の日本語パートナーとして、日本語習得の手伝いをし、日本語指導だけではなく、異文化コミュニケーションも体験することができる授業となる。また、授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。
到達目標	①　教えるべき文型が理解できる。 ②　教案を作ることができる。 ③　実際に日本語の授業を行うことができる。
授業計画	第１回　実習指導１・教授法 第２回　実習指導２・教材研究 第３回　実習指導３・教材研究 第４回　実習指導４・教案指導 第５回　実習指導５・教案指導 第６回　文型の調べ方 第７回　文型の説明の仕方 第８回　初級のポイント 第９回　模擬授業１ 第10回　模擬授業２ 第11回　模擬授業３ 第12回　模擬授業４ 第13回　模擬授業５ 第14回　模擬授業６ 第15回　模擬授業のまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	模擬授業の為の資料探しや、教材作を積極的に行うこと。
授業方法	講義形式＋実習（模擬授業）
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価50%　　模擬授業25%　教案・実習レポート25%
教科書	みんなの日本語　初級Ｉ本冊（スリーエーネットワーク）2,500円 ISDN4-88319-102-8
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育演習B						
担当教員	池谷　知子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	日本語教育実習
授業の概要	日本語教育実習の第二段階として、模擬授業と教壇実習を行う。文型を積み重ね教育での日本語教育初級の流れと全体をつかみ、初中級、中級、上級へと続く日本語教育の基礎固めを行う。ここでは初級の４技能のうち特に「話す・聞く」教育に重点を置く。最後に学内の英語教員、あるいは学外の日本語学習者などを対象とした教壇実習を行う。この教壇実習は、媒介語、板書、学習者の反応など日本語教育の現場で起こる具体的、個別的な事例を体験し、多様化する学習者に対応できるような機会を提供することを目的とする。 また、授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。
到達目標	①　教えるべき文型が理解できる。 ②　教案を作ることができる。 ③　実際に日本語の授業を行うことができる。
授業計画	第１回　レポートの好評 第２回　上手な教え方のコツ 第３回　上手な教え方の工夫 第４回　ゲームを作ってみましょう 第５回　模擬授業１ 第６回　模擬授業２ 第７回　模擬授業３ 第８回　模擬授業４ 第９回　模擬授業５ 第10回　模擬授業６ 第11回　模擬授業７ 第12回　模擬授業８ 第13回　模擬授業９ 第14回　教壇実習１ 第15回　教壇実習２
授業外における学習（準備学習の内容）	模擬授業の為の資料探しや、教材作りが必要です。
授業方法	講義形式＋実習（模擬授業）
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価50%　　模擬授業25%　教案・実習レポート25%
教科書	みんなの日本語　初級Ｉ本冊（スリーエーネットワーク）2,500円 ISDN4-88319-102-8
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育入門						
担当教員	田附　敏尚						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	外国人に対する外国語としての日本語教育と、異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深める。
授業の概要	外国語としての日本語教育を実践的に学び、日本語を外国語として学ぶ人々への理解を深めるなかで、日本語教育の基礎的な知識を学ぶ。日本語教育を通じて、自身の身近な問題から、グローバル化した社会問題まで、多角的な視野と思考力を身に付けるためのトレーニングを行なう。
到達目標	１．日本語教師に必要な基礎的知識を身につけ、学習者にとって何が問題となりうるのかを指摘することができるようになる。 ２．多文化共生、多言語社会を身近な問題として捉え、現状理解とともに問題点の提起ができるようになる。 ３．日本語教育の歴史と現状を正確に把握し、説明できるようになる。
授業計画	第１回　世界のなかの日本語①　イントロダクション 第２回　世界のなかの日本語②　日本語教育の現状・国内 第３回　世界のなかの日本語③　日本語教育の現状・海外 第４回　日本語教育の歴史 第５回　日本語教師の現場 第６回　日本語教育と音声 第７回　日本語教育と文字・表記 第８回　日本語教育と語彙 第９回　日本語教育と文法 第10回　日本語教育と異文化理解 第11回　日本語教育と社会①　多言語表示 第12回　日本語教育と社会②　やさしい日本語 第13回　日本語能力試験の実態 第14回　日本語教育能力検定試験の実態 第15回　総論
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時にテストを行うことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	平常点（テスト含む）５０％、期末レポート５０％
教科書	プリントを配付する
参考書	授業中に紹介する

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育入門						
担当教員	田附　敏尚						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	外国人に対する外国語としての日本語教育と、異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深める。
授業の概要	外国語としての日本語教育を実践的に学び、日本語を外国語として学ぶ人々への理解を深めるなかで、日本語教育の基礎的な知識を学ぶ。日本語教育を通じて、自身の身近な問題から、グローバル化した社会問題まで、多角的な視野と思考力を身に付けるためのトレーニングを行なう。
到達目標	１．日本語教師に必要な基礎的知識を身につけ、学習者にとって何が問題となりうるのかを指摘することができるようになる。 ２．多文化共生、多言語社会を身近な問題として捉え、現状理解とともに問題点の提起ができるようになる。 ３．日本語教育の歴史と現状を正確に把握し、説明できるようになる。
授業計画	第１回　世界のなかの日本語①　イントロダクション 第２回　世界のなかの日本語②　日本語教育の現状・国内 第３回　世界のなかの日本語③　日本語教育の現状・海外 第４回　日本語教育の歴史 第５回　日本語教師の現場 第６回　日本語教育と音声 第７回　日本語教育と文字・表記 第８回　日本語教育と語彙 第９回　日本語教育と文法 第10回　日本語教育と異文化理解 第11回　日本語教育と社会①　多言語表示 第12回　日本語教育と社会②　やさしい日本語 第13回　日本語能力試験の実態 第14回　日本語教育能力検定試験の実態 第15回　総論
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時にテストを行うことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	平常点（テスト含む）５０％、期末レポート５０％
教科書	プリントを配付する
参考書	授業中に紹介する

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用A						
担当教員	池谷　知子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしながら、 日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、国語教育とは何か違うのかという視点を獲得していく。「話す」「聞く」「読む」「書く」の技能別指導方法も具体的に学ぶ。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定している。
到達目標	①　日本語の文法の仕組みやルールを外国語として説明することができる。 ②　よく似た文法の違いを日本語の母語としない人に説明することができる。 ③　日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。
授業計画	第１回　はじめに・名詞文 第２回　形容詞文 第３回　動詞の分類　・辞書形・ 第４回　ます形/て形/た形 第５回　条件 第６回　自動詞・他動詞 第７回　テンス 第８回　アスペクト 第９回　モダリティ 第10回　終助詞 第11回　副詞 第12回　接続詞 第13回　待遇表現・敬語 第14回　留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回　まとめ及び到達度確認
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。 ・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物:10%　授業参加・積極性：50%　期末試験あるいはレポート：40%
教科書	『書き込み式でよくわかる　日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1339-3
参考書	授業の中で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用A						
担当教員	藤井　千枝						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしながら、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、国語教育とは何が違うのかという視点を獲得していく。「話す」「聞く」「読む」「書く」の技能別指導方法も具体的に学ぶ。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定している。
到達目標	①日本語の文法の仕組みやルールを外国語として説明することができる。 ②よく似た文法の違いを日本語の母語としない人に説明することができる。 ③日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。
授業計画	第１回　はじめに・名詞文 第２回　形容詞文 第３回　動詞の分類・辞書形 第４回　ます形／て形／た形 第５回　条件 第６回　自動詞・他動詞 第７回　テンス 第８回　アスペクト 第９回　モダリティ 第10回　終助詞 第11回　副詞 第12回　接続詞 第13回　待遇表現・敬語 第14回　留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回　まとめ及び到達度確認
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語教授法基礎ＡＢは学んでいるものとする。 言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。 ・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物・10%　授業参加・積極性：50%　期末試験あるいはレポート：40%
教科書	『書き込み式でよくわかる　日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1339-3
参考書	授業の中で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用B						
担当教員	池谷　知子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしながら、 日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。
授業の概要	多様化する学習者に対応できる実践的な知識と技能を学ぶ。「話す」「聞く」「読む」「書く」の４技能の指導方法、中級、上級での「会話」「聴解」「作文」教育などの実際も学びながら、誤用分析などを通して、中間言語研究への入門も行う。また、学習者の母語別の問題点の指導法などもとりあげる。年少者への日本語教育、国語教育、母語習得、継承言語など日本語教育をとりまく様々な問題点にもふれる。
到達目標	①　日本語の文法の仕組みやルールを外国語として説明することができる。 ②　よく似た文法の違いを日本語の母語としない人に説明することができる。 ③　日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。
授業計画	第 1回　初級の指導 第 2回　中級の指導 第 3回　上級の指導 第 4回　日本語の誤用分析 第 5回　日本語の音声１（アクセントなど） 第 6回　日本語の音声２（調音点・聴音法） 第 7回　日本語の音声３（発音表記） 第 8回　日本語の音声４（学習者の母語との関係） 第 9回　対照言語学１（言語類型論） 第10回　対照言語学２（英・中・韓国語との比較） 第11回　対照言語学３（英・中・韓国語との比較） 第12回　年少者への日本語教育・第二言語習得 第13回　聴解演習１ 第14回　聴解演習２ 第15回　まとめと到達度確認
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。 ・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物:10%　授業参加・積極性：50%　期末試験あるいはレポート：40%
教科書	『書き込み式でよくわかる　日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1339-3
参考書	授業の中で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用B						
担当教員	藤井　千枝						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしながら、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。
授業の概要	多様化する学習者に対応できる実践的な知識と技能を学ぶ。「話す」「聞く」「読む」「書く」の４技能の指導方法、中級・上級での「会話」「聴解」「作文」教育などの実際も学びながら、誤用分析などを通して、中間言語研究への入門も行う。また、学習者の母語別の問題点の指導法などもとりあげる。年少者への日本語教育、国語教育、母語教育、継承言語など、日本語をとりまく様々な問題点にもふれる。
到達目標	①日本語の文法の仕組みやルールを外国語として説明することができる。 ②よく似た文法の違いを日本語の母語としない人に説明することができる。 ③日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。
授業計画	第１回　初級の指導 第２回　中級の指導 第３回　上級の指導 第４回　日本語の誤用分析 第５回　日本語の音声１（アクセントなど） 第６回　日本語の音声２（調音点・調音法） 第７回　日本語の音声３（発音表記） 第８回　日本語の音声４（学習者の母語との関係） 第９回　対照言語学１（言語類型論） 第10回　対照言語学２（英・中・韓国語との比較） 第11回　対照言語学３（英・中・韓国語との比較） 第12回　年少者への日本語教育・第二言語習得 第13回　聴解演習１ 第14回　聴解演習２ 第15回　まとめと到達度確認
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語教授法基礎ＡＢは学んでいるものとする。 言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。 ・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物：10%　授業参加・積極性：50%　期末試験あるいはレポート：40%
教科書	『書き込み式でよくわかる　日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1339-3
参考書	授業の中で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎A						
担当教員	河野　美抄子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要としていること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識について学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても実際の教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法、コースデザインなどについて述べる。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合もある。
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付ける。 また、交流授業を通して異文化コミュニケーションについて学ぶ。
授業計画	第1回：日本語教育入門 第2回：日本語の文法 第3回：シラバス 第4回：コースデザイン 第5回：外国語教授法1 文法訳読法 第6回：外国語教授法１　オーディオ・リンガル・メソッド 第7回：外国語教授法２　サイレント・ウェイ 第8回：外国語教授法３　TPR 第9回：外国語教授法４　ナチュラル・アプローチ 第10回：外国語教授法５　コミュニカティブ・アプローチ 第11回：外国語教授法６　OPI 第12回：評価法 第13回：コミュニケーション教育 第14回：留学生との交流授業　（日程が変わることもある） 第15回：まとめ及び到達度確認
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性がある。これらの活動も評価対象になる。
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物:10%　授業参加・積極性：50%　期末試験あるいはレポート：40%
教科書	『ベーシック日本語教育』(佐々木泰子著・ひつじ書房)
参考書	『日本語教授法ワークショップ（増補版）』　凡人社

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎A						
担当教員	山極　美奈子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要としていること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識について学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても実際の教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法、コースデザインなどについて述べる。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合もある。
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付ける。 また、交流授業を通して異文化コミュニケーションについて学ぶ。
授業計画	第1回：日本語教育入門 第2回：日本語教育概説１ 第3回：日本語教育概説２ 第4回：コースデザイン 第5回：シラバス 第6回：外国語教授法１　オーディオ・リンガル・メソッド 第7回：外国語教授法２　ＴＰＲ 第8回：外国語教授法３　コミュニカティブ・アプローチ 第9回：外国語教授法４　サイレント・ウェイ 第10回：外国語教授法５　ＯＰＩ 第11回：外国語教授法６　ナチュラル・アプローチ 第12回：日本語のテスト 第13回：評価法（テストの作り方） 第14回：留学生との交流授業　（日程が変わることもある） 第15回：まとめ及び到達度確認
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性がある。これらの活動も評価対象になる。
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物:10%　授業参加・積極性：50%　期末試験あるいはレポート：40%
教科書	「ベーシック日本語教育」佐々木泰子編　ひつじ書房 ISBN978-4-89476-285-5
参考書	「日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド」ヒューマンアカデミー著 ISBN978-4-7981-1788-1

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎B						
担当教員	河野　美抄子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。具体的には、言語教育について、「授業の計画と実施」という視点から考察、日本語教育におけるコミュニケーション教育や異文化理解と真理について学んだ後、言語習得と発達について考えていきたい。さまざまな背景を持つ学習者、年少者への日本語教育、また多様化する教材と教材分析などが主な項目となる。また、授業の中で留学生との交流授業が行われる場合があるので、積極的な参加を望む。
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付ける。また、交流授業を通して異文化コミュニケーションについて学ぶ。
授業計画	第１回：異文化接触と日本語教育・言語と社会 第２回：言語と心理、言語習得 第３回：初級の指導について 第４回：中級の指導について 第５回：上級の指導について 第６回：教材分析 1 第７回：教材分析 2 第８回：「聞く」「話す」指導法　1 第９回：「聞く」「話す」指導法　2 第１０回：「聞く」「話す」指導法　3 第１１回：「読む」「書く」指導法　1 第１２回：「読む」「書く」指導法　2 第１３回：「読む」「書く」指導法　3 第１４回：異文化理解と異文化間教育 第１５回：技能別指導法　まとめ　及び　到達度確認
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性がある。これらの活動も評価対象になる。
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物:10%　授業参加・積極性：50%　期末試験あるいはレポート：40%
教科書	ベーシック日本語教育(佐々木泰子著・ひつじ書房)
参考書	授業中に紹介する

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎B						
担当教員	山極　美奈子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。具体的には、言語教育について、「授業の計画と実施」という視点から考察、日本語教育におけるコミュニケーション教育や異文化理解と真理について学んだ後、言語習得と発達について考えていきたい。さまざまな背景を持つ学習者、年少者への日本語教育、また多様化する教材と教材分析などが主な項目となる。また、授業の中で留学生との交流授業が行われる場合があるので、積極的な参加を望む。
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付ける。また、交流授業を通して異文化コミュニケーションについて学ぶ。
授業計画	第１回：日本語学習者について 第２回：教科書研究１ 第３回：教科書研究２ 第４回：教科書と教材・教具について 第５回：「聞く」「話す」指導法　１ 第６回：「聞く」「話す」指導法　２ 第７回：「聞く」「話す」指導法　３ 第８回：「読む」「書く」指導法　１ 第９回：「読む」「書く」指導法　２ 第１０回：「読む」「書く」指導法　３ 第１１回：初級の指導について 第１２回：中級の指導について 第１３回：上級の指導について 第１４回：中級・上級の指導法　まとめ 第１５回：技能別指導法　まとめ　及び　到達度確認
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性がある。これらの活動も評価対象になる。
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物:10%　授業参加・積極性：50%　期末試験あるいはレポート：40%
教科書	「ベーシック日本語教育」佐々木泰子編　ひつじ書房 ISBN978-4-89476-285-5
参考書	「日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド」ヒューマンアカデミー著 ISBN978-4-7981-1788-1

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門A						
担当教員	青木　稔弥						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	ことばの研究入門
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語の中にある規則性を発見し、ことばへの関心を引き出す。また、コードスイッチングなどのことばの切り換えや、ことばの変化(乱れ)にも触れて、コミュニケーションの問題についても考える。できるだけ学生同士の作業やディスカッションを通じて、日本語の文法のごく基礎的な知識やコミュニケーションの問題について考えていく。
到達目標	・日本語文法の基礎的知識を身につけ、それを説明できるようになる ・コミュニケーションの問題をことばの面から捉え、よりよい表現を選択できるようになる
授業計画	第１回　はじめに 第２回　図書館活用の方法 第３回　日本語の特徴１―　ものの数え方 第４回　日本語の特徴２　―　人の呼称 第５回　日本語の文法を考える１―　動詞と文型 第６回　日本語の文法を考える２　―　動詞と活用 第７回　日本語の文法を考える３―　動詞と名詞 第８回　日本語の文法を考える４―　形容詞と感情 第９回　動詞と形容詞の問題まとめ 第10回　コミュニケーションの問題１　―　敬語１ 第11回　コミュニケーションの問題２　―　敬語２ 第12回　コミュニケーションの問題３　―ことばの選択・コードスイッチング 第13回　文章表現１　―　お知らせのメール 第14回　文章表現２　―　お願いのメール 第15回　コミュニケーションの問題・文章表現のまとめ・試験
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性がある。これらの活動も評価対象になる。
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題:10%　授業参加・積極性：50%　試験あるいはレポート：40% 授業中にまとめの小テストを行う場合もある。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門A						
担当教員	池谷　知子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	ことばの研究入門
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語の中にある規則性を発見し、ことばへの関心を引き出す。また、コードスイッチングなどのことばの切り換えや、ことばの変化(乱れ)にも触れて、コミュニケーションの問題についても考える。できるだけ学生同士の作業やディスカッションを通じて、日本語の文法のごく基礎的な知識やコミュニケーションの問題について考えていく。
到達目標	・日本語文法の基礎的知識を身につけ、それを説明できるようになる ・コミュニケーションの問題をことばの面から捉え、よりよい表現を選択できるようになる
授業計画	第１回　はじめに 第２回　図書館活用の方法 第３回　日本語の特徴１―　ものの数え方 第４回　日本語の特徴２　―　人の呼称 第５回　日本語の文法を考える１―　動詞と文型 第６回　日本語の文法を考える２　―　動詞と活用 第７回　日本語の文法を考える３―　動詞と名詞 第８回　日本語の文法を考える４―　形容詞と感情 第９回　動詞と形容詞の問題まとめ 第10回　コミュニケーションの問題１　―　敬語１ 第11回　コミュニケーションの問題２　―　敬語２ 第12回　コミュニケーションの問題３　―ことばの選択・コードスイッチング 第13回　文章表現１　―　お知らせのメール 第14回　文章表現２　―　お願いのメール 第15回　コミュニケーションの問題・文章表現のまとめ・試験
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性がある。これらの活動も評価対象になる。
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題:10%　授業参加・積極性：50%　試験あるいはレポート：40% 授業中にまとめの小テストを行う場合もある。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門A						
担当教員	田附　敏尚						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	ことばの研究入門
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語の中にある規則性を発見し、ことばへの関心を引き出す。また、コードスイッチングなどのことばの切り換えや、ことばの変化(乱れ)にも触れて、コミュニケーションの問題についても考える。できるだけ学生同士の作業やディスカッションを通じて、日本語の文法のごく基礎的な知識やコミュニケーションの問題について考えていく。
到達目標	・日本語文法の基礎的知識を身につけ、それを説明できるようになる ・コミュニケーションの問題をことばの面から捉え、よりよい表現を選択できるようになる
授業計画	第１回　はじめに 第２回　図書館活用の方法 第３回　日本語の特徴１―　ものの数え方 第４回　日本語の特徴２　―　人の呼称 第５回　日本語の文法を考える１―　動詞と文型 第６回　日本語の文法を考える２　―　動詞と活用 第７回　日本語の文法を考える３―　動詞と名詞 第８回　日本語の文法を考える４―　形容詞と感情 第９回　動詞と形容詞の問題まとめ 第10回　コミュニケーションの問題１　―　敬語１ 第11回　コミュニケーションの問題２　―　敬語２ 第12回　コミュニケーションの問題３　―ことばの選択・コードスイッチング 第13回　文章表現１　―　お知らせのメール 第14回　文章表現２　―　お願いのメール 第15回　コミュニケーションの問題・文章表現のまとめ・試験
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性がある。これらの活動も評価対象になる。
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題:10%　授業参加・積極性：50%　試験あるいはレポート：40% 授業中にまとめの小テストを行う場合もある。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門B						
担当教員	青木　稔弥						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	文章によって伝達する方法や型について考える
授業の概要	文章を書くことは、大学の勉学に欠かせないことであり、かつ、社会に出ても役立つ能力である。 この授業では文芸的な文章ではなく、あらたまった手紙の表現や、論説的な文章に重点を置いて、文章の構造や、表現の的確さを高める方法を分析する。 また、いくつかの具体的なテーマを扱いながら、その疑問を解いてゆく授業も行う。例えば「心づかい」はなぜ「づ」を用いるのかという仮名遣いと日本語の歴史の問題、「バラ」と「ボク」をどうしてカタカナで書くのかというカタカナ表記の問題、「し」「つ」はなぜローマ字で「shi」「tsu」と書くのかというローマ字表記の問題、「あす・あした・みょうにち」などの同じ意味の言葉など、具体的な問題点を中心に考えていく。
到達目標	・日本語の歴史と表記の問題について、説明できるようになる ・的確な表現で文章が書けるようになる
授業計画	第１回　日本語の特徴１―　日本語の歴史と表記１ 第２回　日本語の特徴２―　日本語の歴史と表記２ 第３回　日本語の特徴３―　日本語の歴史と表記３ 第４回　わかりやすい情報伝達１　―　レストランのメニュー 第５回　わかりやすい情報伝達２　―　レストランのメニュー2 第６回　わかりやすい情報伝達３　―　注意書きやサービス案内 第７回　文章表現１　あらたまった手紙の書き方 第８回　文章表現２　説明をする 第９回　文章表現３　文章を読解する 第10回　文章表現４　文章を要約する 第11回　文章表現５　わかりやすい文章表現１ 第12回　文章表現６　わかりやすい文章表現２ 第13回　レポートを書く１　テーマを絞る 第14回　レポートを書く２　型を守って書く 第15回　レポートを書く３　型をレポートにする
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性がある。これらの活動も評価対象になる。
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題:10%　授業参加・積極性：50%　試験あるいはレポート：40% 授業中にまとめの小テストを行う場合もある。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門B						
担当教員	池谷　知子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	文章によって伝達する方法や型について考える
授業の概要	文章を書くことは、大学の勉学に欠かせないことであり、かつ、社会に出ても役立つ能力である。 この授業では文芸的な文章ではなく、あらたまった手紙の表現や、論説的な文章に重点を置いて、文章の構造や、表現の的確さを高める方法を分析する。 また、いくつかの具体的なテーマを扱いながら、その疑問を解いてゆく授業も行う。例えば「心づかい」はなぜ「づ」を用いるのかという仮名遣いと日本語の歴史の問題、「バラ」と「ボク」をどうしてカタカナで書くのかというカタカナ表記の問題、「し」「つ」はなぜローマ字で「shi」「tsu」と書くのかというローマ字表記の問題、「あす・あした・みょうにち」などの同じ意味の言葉など、具体的な問題点を中心に考えていく。
到達目標	・日本語の歴史と表記の問題について、説明できるようになる ・的確な表現で文章が書けるようになる
授業計画	第１回　日本語の特徴１―　日本語の歴史と表記１ 第２回　日本語の特徴２―　日本語の歴史と表記２ 第３回　日本語の特徴３―　日本語の歴史と表記３ 第４回　わかりやすい情報伝達１　―　レストランのメニュー 第５回　わかりやすい情報伝達２　―　レストランのメニュー2 第６回　わかりやすい情報伝達３　―　注意書きやサービス案内 第７回　文章表現１　あらたまった手紙の書き方 第８回　文章表現２　説明をする 第９回　文章表現３　文章を読解する 第10回　文章表現４　文章を要約する 第11回　文章表現５　わかりやすい文章表現１ 第12回　文章表現６　わかりやすい文章表現２ 第13回　レポートを書く１　テーマを絞る 第14回　レポートを書く２　型を守って書く 第15回　レポートを書く３　型をレポートにする
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性がある。これらの活動も評価対象になる。
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題:10%　授業参加・積極性：50%　試験あるいはレポート：40% 授業中にまとめの小テストを行う場合もある。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門B						
担当教員	田附　敏尚						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	文章によって伝達する方法や型について考える
授業の概要	文章を書くことは、大学の勉学に欠かせないことであり、かつ、社会に出ても役立つ能力である。 この授業では文芸的な文章ではなく、あらたまった手紙の表現や、論説的な文章に重点を置いて、文章の構造や、表現の的確さを高める方法を分析する。 また、いくつかの具体的なテーマを扱いながら、その疑問を解いてゆく授業も行う。例えば「心づかい」はなぜ「づ」を用いるのかという仮名遣いと日本語の歴史の問題、「バラ」と「ボク」をどうしてカタカナで書くのかというカタカナ表記の問題、「し」「つ」はなぜローマ字で「shi」「tsu」と書くのかというローマ字表記の問題、「あす・あした・みょうにち」などの同じ意味の言葉など、具体的な問題点を中心に考えていく。
到達目標	・日本語の歴史と表記の問題について、説明できるようになる ・的確な表現で文章が書けるようになる
授業計画	第１回　日本語の特徴１―　日本語の歴史と表記１ 第２回　日本語の特徴２―　日本語の歴史と表記２ 第３回　日本語の特徴３―　日本語の歴史と表記３ 第４回　わかりやすい情報伝達１　―　レストランのメニュー 第５回　わかりやすい情報伝達２　―　レストランのメニュー2 第６回　わかりやすい情報伝達３　―　注意書きやサービス案内 第７回　文章表現１　あらたまった手紙の書き方 第８回　文章表現２　説明をする 第９回　文章表現３　文章を読解する 第10回　文章表現４　文章を要約する 第11回　文章表現５　わかりやすい文章表現１ 第12回　文章表現６　わかりやすい文章表現２ 第13回　レポートを書く１　テーマを絞る 第14回　レポートを書く２　型を守って書く 第15回　レポートを書く３　型をレポートにする
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性がある。これらの活動も評価対象になる。
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題:10%　授業参加・積極性：50%　試験あるいはレポート：40% 授業中にまとめの小テストを行う場合もある。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	青木　稔弥						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	恋愛小説の読み方
授業の概要	二十一世紀の現代小説、梶尾真治『つばき、時跳び』を読む。梶尾真治はＳＦ作家と目されているが、そのような分類を無効にする魅力的な作品を数多く執筆している。 梶尾真治は映画『黄泉がえり』や『この胸いっぱいの愛を』の原作者でもあり、『つばき、時跳び』は舞台上演もなされた。ドラマや映画、演劇と小説の関連にも留意しつつ、小説の面白さを満喫してもらうことにする。
到達目標	小説そのものを素朴に読むのではなく、様々な点から読みの可能性を追究する。 発表メディアについても考察し、一面的な読み、平面的な読みから脱却する。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　恋愛小説とは 第３回　梶尾真治の世界 第４回　時を越えた愛 第５回　本当のハッピイエンド 第６回　『この胸いっぱいの愛を』の世界 第７回　物語の終わり 第８回　『黄泉がえり』の世界 第９回　映画と小説の関係 第10回　『つばき、時跳び』の世界 第11回　『つばき、時跳び』の時間 第12回　見せ物の世界 第13回　『未来のおもいで』の世界 第14回　恋愛小説の成立 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	積極的に活動し、ドラマや映画、演劇の世界にもアンテナを張り巡らしておくこと。
授業方法	演習形式
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価70%とレポート試験30%
教科書	梶尾真治『つばき、時跳び』（平凡社ライブラリー） ISBN978-4-582-76703-2 C0393
参考書	授業中に紹介する

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	池谷　知子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」
授業の概要	日本語教科書の教材分析を通して日本語を客観的に整理し、日本語母語話者の使っている日本語の実態に迫る。 日本語教材を様々な角度から分析し、そこ日本語母語話者の話す日本語がどのように整理されているのか、またその言語表現の背後にある日本語使用と意識について、考えていく。 演習はそれぞれがテーマを決めて、発表要旨をまとめ、口頭発表する形式で進める。
到達目標	①　母語である「日本語」を客観的に分析することができる。 ②　卒論につながるテーマを見つけることができる。 ③　参考文献や資料さがすことができる。
授業計画	第１回　第一演習についての位置づけ 第２回　いろいろなシラバス 第３回　シラバスと日本語の教書１ 第４回　シラバスと日本語の教科書２ 第５回　機能シラバスのテキストを作る１ 第６回　機能シラバスのテキストを作る２ 第７回　機能シラバスのテキストを作る３ 第８回　日本語文法への招待 第９回　日本語の品詞 第10回　名詞述語と形容詞述語 第11回　語から文へ〜助詞 第12回　文の要素からのとりたて〜焦点化 第13回　ハとガの話１ 第14回　ハとガの話２ 第15回　動詞述語
授業外における学習（準備学習の内容）	発表があたった問題は、図書館などを利用して、積極的に調べるようにすること。
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心に行う
評価基準と評価方法	平常点（５０％ ）発表（２０％）レポート（３０％）
教科書	近藤安月子（2008）『日本語教師を目指す人のための日本語学入門』研究社(1800円) ISBN978-4-327-38452-4
参考書	授業の中で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	田附　敏尚						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	方言の記述・分析のための準備
授業の概要	現代日本語の話しことばにおけるさまざまな問題点を知るために、方言学のテキストを講読する。各自の興味・関心にしたがって、それぞれの課題を設定し発表する。
到達目標	・日本語の多様性について理解を深め、そこから適切な調査対象を見つけることができるようになる。 ・基本的な知識と手法を用いてことばを分析できるようになる。 ・テキストの的確な要約ができるようになる。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　方言学に関するテキストの講読① 第３回　方言学に関するテキストの講読② 第４回　方言学に関するテキストの講読③ 第５回　調査演習（分布解釈） 第６回　方言学に関するテキストの講読④ 第７回　方言学に関するテキストの講読⑤ 第８回　調査演習（アクセント） 第９回　方言学に関するテキストの講読⑥ 第10回　方言学に関するテキストの講読⑦ 第11回　方言学に関するテキストの講読⑧ 第12回　各自の研究計画の検討① 第13回　各自の研究計画の検討② 第14回　予備調査の実施① 第15回　予備調査の実施②
授業外における学習（準備学習の内容）	次回講読分の予習が必要。疑問点等をチェックして授業に臨むこと。 またそれとともに、各自が研究計画をすることになるため、身近な問題としてことばに敏感であってほしい。
授業方法	講読および演習形式
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%とレポート40%
教科書	『方言学入門』木部暢子・竹田晃子・田中ゆかり・日高水穂・三井はるみ 編著（三省堂、2013年） ISBN-10: 4385363935 ISBN-13: 978-4385363936
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	田中　まき						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	『伊勢物語』を影印本で読む
授業の概要	平安時代の歌物語である『伊勢物語』の演習をおこなう。 『伊勢物語』は在原業平とおぼしき「男」を主人公にした歌物語である。その男の、様々な女性との恋のやり取り、惟喬親王や友人との親愛の情などが百二十五章段に描かれている。本演習では、この『伊勢物語』を、江戸時代の初めに刊行された「嵯峨本」の影印本で読み進める。 『伊勢物語』を味読しつつ、『伊勢物語』がどのように作られてきたのか、生成の問題を考え、さらに、伊勢物語絵巻・絵本や伊勢物語の古注釈書に注目して、物語がどのように捉えられ、どのように享受されてきたか、また、その解釈が、伊勢物語の絵などにどのように反映されているかについて考えていきたい。
到達目標	『伊勢物語』の特質を探究し、平安時代の物語がどのように生成してきたかを理解する。
授業計画	第１回　物語文学の展開相と『伊勢物語』の概説講義 第２回　『伊勢物語』の成立と構成についての講義 第３回　『伊勢物語』の伝本についての講義 第４回　『伊勢物語』の注釈の歴史についての講義 第５回　『伊勢物語』第１段についての講義 第６回　『伊勢物語』第２段についての演習 第７回　『伊勢物語』第４段についての演習 第８回　『伊勢物語』第５段についての演習 第９回　『伊勢物語』第６段についての演習 第10回　『伊勢物語』第９段前半についての演習 第11回　『伊勢物語』第９段後半についての演習 第12回　『伊勢物語』第12段についての演習 第13回　『伊勢物語』第23段についての演習 第14回　『伊勢物語』第41段についての演習 第15回　『伊勢物語』の生成についてのまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	演習の発表者は種々の『伊勢物語』注釈書や文献を読んで、念入りに演習の発表準備をするのはもとより、 発表者以外も『伊勢物語』の本文が読解できるよう、古文読解の基礎的事項は自宅学習しておく。 『伊勢物語』の影印本を翻字できるよう、連綿体の文字を読み取る練習をする。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	演習の発表内容及び演習に対する取り組み（60%）、小テスト（30%）、平常点（10%）
教科書	『伊勢物語　慶長十三年刊嵯峨本第一種』片桐洋一編（和泉書院）4-900137-32-4
参考書	『伊勢物語全評釈』竹岡正夫（右文書院） 新編日本古典文学全集『伊勢物語』福井貞助（小学館） 新日本古典文学大系『伊勢物語』秋山　虔（岩波書店） 『伊勢物語全読解』片桐洋一（和泉書院）

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	青木　稔弥						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	恋愛小説の新たな読み方
授業の概要	二十一世紀の現代小説、北村薫『ひとがた流し』を読む。北村薫はミステリー作家と目されているが、そのような分類を無効にする魅力的な作品を数多く執筆している。 　『ひとがた流し』は沢口靖子主演でテレビドラマ化されているので、ドラマや映画と小説の関連にも留意しつつ、小説の面白さを満喫してもらうことにする。
到達目標	小説そのものを素朴に読むのではなく、様々な点から読みの可能性を追究する。 一面的な読み、平面的な読みから脱却して、高次の読みを獲得する。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　日本の文学 第３回　小説というジャンル 第４回　覆面作家のこと 第５回　北村薫の世界 第６回　「ひとがた流し」とは 第７回　『ひとがた流し』の世界 第８回　『ひとがた流し』の時間 第９回　『ひとがた流し』の女性 第10回　『ひとがた流し』の職業 第11回　ドラマ化すること 第12回　ドラマ『ひとがた流し』 第13回　ドラマの結末 第14回　小説の結末 第15回　総まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	積極的に活動し、様々なジャンルにアンテナを張り巡らしておく。
授業方法	演習形式
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価70%とレポート試験30%
教科書	北村薫著『ひとがた流し』（新潮文庫） ISBN:978-4-10-137331-7
参考書	授業中に紹介する

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	池谷　知子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」
授業の概要	日本語教科書の教材分析を通して日本語を客観的に整理し、日本語母語話者の使っている日本語の実態を新たな観点から捉え直す作業をする。演習形式で進める。後半は４年次の卒業論文なども視野に入れ、自分自身のテーマを見つけていくための演習・訓練となる。
到達目標	①　母語である「日本語」を客観的に分析することができる。 ②　卒論につながるテーマを見つけることができる。 ③　参考文献や資料をさがすことができる。
授業計画	第１回　夏休みのレポートの発表１ 第２回　夏休みのレポートの発表２ 第３回　夏休みのレポートの発表３ 第４回　ヴォイス〜受身 第５回　ヴォイス〜使役 第６回　ヴォイス〜授受 第７回　ヴォイスの選択〜話し手の視点 第８回　テンス〜述語のル形とタ形 第９回　アスペクト１〜ル形とタ形とテイル形 第10回　アスペクト２〜テアル・テオク・テシマウ 第11回　イクとクル、テイクとテクル 第12回　単文から複文へ〜従属節の色々 第13回　連体修飾説 第14回　終助詞 第15回　待遇表現〜敬語
授業外における学習（準備学習の内容）	発表があたった問題は、図書館などを利用して、積極的に調べるようにすること。
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心に行う
評価基準と評価方法	平常点（５０％ ）発表（２０％）レポート（３０％）
教科書	近藤安月子（2008）『日本語教師を目指す人のための日本語学入門』研究社(1800円) ISBN978-4-327-38452-4
参考書	授業の中で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	田附　敏尚						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	方言の記述・分析
授業の概要	前期に引き続き現代日本語の話しことばにおけるさまざまな問題点を知るために、方言学のテキストを講読する。また、前期に定めた各自の研究テーマにしたがって、調査・資料収集などを行い、各自が演習形式で発表し、討論を行う。
到達目標	・日本語の多様性について理解を深め、そこから適切な調査対象を見つけることができるようになる。 ・基本的な知識と手法を用いてことばを分析できるようになる。 ・テキストの的確な要約ができるようになる。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　調査結果のまとめ方 第３回　個人別演習発表①、② 第４回　個人別演習発表③、④ 第５回　個人別演習発表⑤、⑥ 第６回　個人別演習発表⑦ 第７回　方言学に関するテキストの講読① 第８回　方言学に関するテキストの講読② 第９回　方言学に関するテキストの講読③ 第10回　方言学に関するテキストの講読④ 第11回　方言学に関するテキストの講読⑤ 第12回　方言学に関するテキストの講読⑥ 第13回　方言学に関するテキストの講読⑦ 第14回　調査演習（方言コスプレ・ヴァーチャル方言） 第15回　まとめ（卒業論文に向けて）
授業外における学習（準備学習の内容）	講読形式の部分は、次回講読分の予習が必要。疑問点等をチェックして授業に臨むこと。 また、演習形式のところでは、発表の準備が中心となる。念入りに準備すること。
授業方法	講読および演習形式
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%とレポート40%
教科書	『方言学入門』木部暢子・竹田晃子・田中ゆかり・日高水穂・三井はるみ 編著（三省堂、2013年） ISBN-10: 4385363935 ISBN-13: 978-4385363936
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	田中　まき						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	『伊勢物語』を影印本で読む
授業の概要	平安時代の歌物語である『伊勢物語』の演習をおこなう。 『伊勢物語』は在原業平とおぼしき「男」を主人公にした歌物語である。その男の、様々な女性との恋のやり取り、惟喬親王や友人との親愛の情などが百二十五章段に描かれている。本演習では、この『伊勢物語』を、江戸時代の初めに刊行された「嵯峨本」の影印本で読み進める。 『伊勢物語』を味読しつつ、『伊勢物語』がどのように作られてきたのか、生成の問題を考え、さらに、伊勢物語絵巻・絵本や伊勢物語の古注釈書に注目して、物語がどのように捉えられ、どのように享受されてきたか、また、その解釈が、伊勢物語の絵などにどのように反映されているかについて考えていきたい。
到達目標	『伊勢物語』の特質を探究し、平安時代の物語がどのように享受されてきたかを理解する。
授業計画	第１回　『伊勢物語』の享受についての講義 第２回　『伊勢物語』第49段についての演習 第３回　『伊勢物語』第63段についての演習 第４回　『伊勢物語』第69段前半についての演習 第５回　『伊勢物語』第69段後半についての講義 第６回　『伊勢物語』第82段前半についての演習 第７回　『伊勢物語』第82段後半についての演習 第８回　『伊勢物語』第83段についての演習 第９回　『伊勢物語』第87段前半についての演習 第10回　『伊勢物語』第87段後半についての演習 第11回　『伊勢物語』第101段についての演習 第12回　『伊勢物語』第107段についての演習 第13回　『伊勢物語』第123段についての演習 第14回　『伊勢物語』第125段についての演習 第15回　『伊勢物語』の享受についてのまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	演習の発表者は種々の『伊勢物語』注釈書や文献を読んで、念入りに演習の発表準備をするのはもとより、 発表者以外も『伊勢物語』の本文が読解できるよう、古文読解の基礎的事項は自宅学習しておく。 『伊勢物語』の影印本を翻字できるよう、連綿体の文字を読み取る練習をする。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	演習の発表内容及び演習に対する取り組み（60%）、小テスト（30%）、平常点（10%）
教科書	『伊勢物語　慶長十三年刊嵯峨本第一種』片桐洋一編（和泉書院）4-900137-32-4
参考書	『伊勢物語古注釈書コレクション』片桐洋一（和泉書院） 『伊勢物語絵巻・絵本大成』（角川学芸出版） 『伊勢物語全読解』片桐洋一（和泉書院）

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	秋本　鈴史						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	浮世草子『けいせい風流杉盃』
授業の概要	昨年度に引き続き『けいせい風流杉盃』を読む。江戸時代の木版本のコピー（写真版）をテキストとして、300年前の世界をのぞいてみたい。時代の世相を、原文のリズムと共に楽しみながら詠むことをめざす。『けいせい風流杉盃』は宝永２年（1705）３月に刊行された浮世草子。作者は未詳。各巻を京都・江戸・大阪・諸国に分けて、日本各地で当時実際に起こった男女の愛欲事件に取材した作品。その中には著名な曽根崎心中事件や米屋心中事件、さらには初代市川団十郎殺害事件なども含まれる。
到達目標	変体仮名で書かれた「原本」を読むことができ、その内容を理解することができるようになるのが目標である。
授業計画	第１回　浮世草子概説 第２回　『けいせい風流杉盃』巻２－１　発端１ 第３回　『けいせい風流杉盃』巻２－１　発端２ 第４回　『けいせい風流杉盃』巻２－２　展開１－１ 第５回　『けいせい風流杉盃』巻２－２　展開１－２ 第６回　『けいせい風流杉盃』巻２－３　展開２－１ 第７回　『けいせい風流杉盃』巻２－３　展開２－２ 第８回　『けいせい風流杉盃』巻２－４　展開３－１ 第９回　『けいせい風流杉盃』巻２－４　展開３－２ 第10回　『けいせい風流杉盃』巻２のまとめ 第11回　『けいせい風流杉盃』に描かれた京都 第12回　近世の廓制度 第13回　近世の廓制度 第14回　近世の経済 第15回　浮世草子としての『けいせい風流杉盃』
授業外における学習（準備学習の内容）	演習形式で行うため、発表の準備が中心となる。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	発表による。
教科書	プリントを配布。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	池谷　知子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」
授業の概要	母語である日本語を「外国語として見る」ことは、それほど簡単なことではありません。なぜなら、私たちは無意識のうちに母語としての日本語を自由使いこなせているからです。 そこで、日本語の話し言葉を分析したり、日本語学習者の間違いや、日本語に対する疑問について考えることを通じて、私たちが無意識に使っている日本語について客観的に考えていきます。第２演習は卒業研究のための演習です。授業中にふと疑問に思ったことはできるだけノートにとっておくことをおすすめします。「きれい」と「美しい」は何が違うんだろうというような、小さな疑問でも後からじっくり考えるためのヒントとなります。
到達目標	①　母語である「日本語」を客観的に分析することができる。 ②　卒論につながるテーマを見つけることができる。 ③　参考文献や資料をさがすことができる。
授業計画	第１回　第２演習についての位置づけについての概説 第２回　語彙分析の方法について 第３回　語彙分析の発表と質疑応答１ 第４回　語彙分析の発表と質疑応答２ 第５回　語彙分析の発表と質疑応答３ 第６回　アンケート調査の方法について 第７回　用例採取の方法論について 第８回　会話分析の方法について 第９回　会話分析の発表と質疑応答１ 第10回　会話分析の発表と質疑応答２ 第11回　会話分析の発表と質疑応答３ 第12回　用例分析の方法 第13回　用例分析の発表と質疑応答１ 第14回　用例分析の発表と質疑応答２ 第15回　前期のまとめとレポートについての指示
授業外における学習（準備学習の内容）	発表があたった問題は、図書館などを利用して、積極的に調べるようにすること。
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする
評価基準と評価方法	平常点（５０％ ）発表（２０％）　レポート（３０％）
教科書	適宜ハンドアウトを配布
参考書	授業の中で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	片岡　利博						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	源氏物語に見る王朝の文化
授業の概要	源氏物語のテキスト、および、それにかかわりのある諸文献を資料として、王朝文化の種々相を考える。和歌をはじめとする言語文化、衣食住にかかわる生活文化、仏教や陰陽道といった精神文化など、受講生それぞれが関心をもつ事項について、各自が考え、調べたことをクラスで発表し、それについての質疑応答を積み重ねて、さまざまな知見をメンバーで共有していく。 あわせて、効果的なプレゼンテーションの技能が修得できるようになることも課題としたい。
到達目標	日本の文化についての知見を増やすこと。プレゼンテーションの技能を磨くこと。
授業計画	１　源氏物語について　成立事情について ２　源氏物語について　あらすじの把握　その１　第Ⅰ部 ３　源氏物語について　あらすじの把握　その２　第Ⅱ部 ４　源氏物語について　あらすじの把握　その３　宇治十帖 ５　源氏物語のテキストについて ６　源氏物語に関する基礎知識の確認と中間テスト ７　メンバーによる発表　第1回 ８　第1回発表についての質疑応答 ９　メンバーによる発表　第2回 １０　第2回発表についての質疑応答 １１　メンバーによる発表　第３回 １２　第３回発表についての質疑応答 １３　メンバーによる発表　第４回 １４　第４回発表についての質疑応答 １５　演習の反省と期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	各自でテーマを見つけ、調べ、考えたことをまとめて、レジュメを作成する。
授業方法	１～５は講義。６～１５は演習形式による。
評価基準と評価方法	平常点６０％　中間テスト１５％　期末試験　２５％
教科書	常用　源氏物語要覧（武蔵野書院）
参考書	教室で指示する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	田附　敏尚						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	方言地図を読む
授業の概要	『日本言語地図』『方言文法全国地図』、また『兵庫県の方言地図』などの方言地図を読み、その分布状況から、伝播経路や言葉の新旧を読み解いていく。これにより、ことばを地道に調べる力と、想像力・推理力を養うことを目標とする。 　前期の前半はいくつか見本として取り上げ、伝播のありようや分析方法を学習していく。そこから各自で地図を選び、発表する。
到達目標	・方言地巣の分布状況から、伝播経路や言葉の新旧を読み解くことができるようになる。 ・古辞書などを調べて、地図からの推定と照らし合わせ、より確実な新旧を読み解くことができるようになる。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　方言地図の読み方 第３回　ことばの調べ方 第４回　地図を決める 第５回　方言地図を読む（発表①） 第６回　方言地図を読む（発表②） 第７回　方言地図を読む（発表③） 第８回　方言地図を読む（発表④） 第９回　方言地図を読む（発表⑤） 第10回　方言地図を読む（発表⑥） 第11回　方言地図を読む（発表⑦） 第12回　方言地図を読む（発表⑧） 第13回　方言地図を読む（発表⑨） 第14回　方言地図を読む（発表⑩） 第15回　総論
授業外における学習（準備学習の内容）	課題としたことばの調査や発表資料作成など、授業外での準備が大切となるため、念入りに準備すること。
授業方法	講義、及び演習形式
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%とレポート40%
教科書	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	田附　敏尚						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	日本語のしくみを考える
授業の概要	日本語の類意表現を取りあげ、用例から記述する方法の洗練をめざす。 テーマは学生自身が選んだことをもとに、関連する日本語の問題にも目配りをするようにアドバイスし発表してもらう。
到達目標	・日本語の用例から意味や用法を記述することができるようになる。 ・討議し、お互いに意見を出し良い考えを引き出すことができるようになる。
授業計画	１）発表課題解説と担当者割り当て ２）個人発表（内容未定） ３）個人発表（内容未定） ４）個人発表（内容未定） ５）個人発表（内容未定） ６）個人発表（内容未定） ７）個人発表（内容未定） ８）個人発表（内容未定） ９）個人発表（内容未定） 10）個人発表（内容未定） 11）個人発表（内容未定） 12）個人発表（内容未定） 13）補足発表（これまでの発表の補足） 14）補足発表（これまでの発表の補足） 15）まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	発表に際しては十分な準備をし、かつわかりやすく説明できるように準備する必要がある。 また、他の発表者に有効なコメントができるように準備することも必要である。
授業方法	演習形式
評価基準と評価方法	発表や質疑の内容60%　平常点40%
教科書	なし。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	田中　まき						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	『古今和歌集』の研究
授業の概要	我が国最初の勅撰和歌集である平安時代の『古今和歌集』について演習を行う。 具体的には、本学図書館所蔵の『古今和歌集かるた』を題材とし、まず、このかるたに取り上げられている絵札・字札が、どの歌を扱ったものかを解明し、その本文系統や絵の意味について探究する。 また、それぞれの歌の用語や修辞技巧、さらには、それぞれの歌に現れている王朝びとの発想や当時の人々の暮らしぶり、儀礼、行事についても考察する。
到達目標	本学図書館所蔵の『古今和歌集かるた』のすべての字札・絵札に書かれた文字を翻字する。 それぞれの歌の解釈や鑑賞ができる。
授業計画	第１回　和歌文学についての概説講義 第２回　和歌の文学史についての講義 第３回　和歌の修辞技巧についての講義 第４回　歌かるたについての講義 第５回　『古今和歌集』の構成（部立・配列） 第６回　『古今和歌集』春上の演習 第７回　『古今和歌集』春下の演習 第８回　『古今和歌集』夏の演習 第９回　『古今和歌集』秋上の演習 第10回　『古今和歌集』秋下の演習 第11回　『古今和歌集』冬の演習 第12回　『古今和歌集』賀の演習 第13回　『古今和歌集』の伝本についての講義 第14回　古今伝授についての講義 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	かるたの変体仮名の文字を読むことができるようになる。 『古今和歌集』の展開を理解できるようになる。 『古今和歌集』の歌が読解、鑑賞できる。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	演習の発表内容（60%）、小テスト（20%）、演習に対する取り組み（20%）
教科書	『古今和歌集』片桐洋一訳・注（笠間書院） ISBN 978-4-305-70417-7（4-305-70417-X）C392
参考書	授業中に提示する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	秋本　鈴史						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	浮世草子『けいせい風流杉盃』
授業の概要	前期に続き『けいせい風流杉盃』を読む。当時の男女が起こした悲しくも哀れな物語の中に、元禄時代の現実があった。従来あまり注目されることのなかった作品であるが、江戸時代に出版された原本（写真版）も参考にしながら、巻２・巻３を中心にじっくりと楽しく読んでみたい。
到達目標	変体仮名で書かれた「原本」を読むことができ、その内容を理解することができるようになるのが目標である。
授業計画	第１回　「好色物」概説 第２回　『けいせい風流杉盃』巻３－１ 第３回　『けいせい風流杉盃』巻３－２ 第４回　『けいせい風流杉盃』巻３－３ 第５回　『けいせい風流杉盃』巻３－４ 第６回　『けいせい風流杉盃』巻３－５ 第７回　『けいせい風流杉盃』巻４－１ 第８回　『けいせい風流杉盃』巻４－２ 第９回　『けいせい風流杉盃』巻４－３ 第10回　『けいせい風流杉盃』巻４－４ 第11回　『けいせい風流杉盃』巻４－５ 第12回　『けいせい風流杉盃』巻３のまとめ 第13回　『けいせい風流杉盃』巻４のまとめ 第14回　事実と虚構 第15回　浮世草子と演劇
授業外における学習（準備学習の内容）	演習形式で行うため、発表の準備が中心となる。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	発表による。
教科書	プリントを配布。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	池谷　知子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	外国語としで出会う「日本語」
授業の概要	母語である日本語を「外国語として見る」ことは、それほど簡単なことではありません。なぜなら、私たちは無意識のうちに母語としての日本語を自由使いこなせているからです。 そこで、日本語の話し言葉を分析したり、日本語学習者の間違いや、日本語に対する疑問について考えることを通じて、私たちが無意識に使っている日本語について客観的に考えていきます。 第２演習は卒業研究のための演習です。授業中にふと疑問に思ったことはできるだけノートにとっておくことをおすすめします。「きれい」と「美しい」は何が違うんだろうというような、小さな疑問でも後からじっくり考えるためのヒントとなります。
到達目標	①　母語である「日本語」を客観的に分析することができる。 ②　卒論につながるテーマを見つけることができる。 ③　参考文献や資料をさがすことができる。
授業計画	第１回　夏期レポートの講評と問題点の発見１ 第２回　夏期レポートの講評と問題点の発見２ 第３回　夏期レポートの講評と問題点の発見３ 第４回　用例採取の方法１ 第５回　用例採取の方法２ 第６回　各自のテーマの発表と質疑応答１ 第７回　各自のテーマの発表と質疑応答２ 第８回　各自のテーマの発表と質疑応答３ 第９回　各自のテーマの発表と質疑応答４ 第10回　各自のテーマの発表と質疑応答５ 第11回　各自のテーマの発表と質疑応答６ 第12回　各自のテーマの発表と質疑応答７ 第13回　各自のテーマの発表と質疑応答８ 第14回　各自のテーマの発表と質疑応答９ 第15回　第２演習のまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	発表があたった問題は、図書館などを利用して、積極的に調べるようにすること。
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする。
評価基準と評価方法	平常点（５０％ ）発表（２０％）レポート（３０％）
教科書	適宜ハンドアウトを配布
参考書	授業の中で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	片岡　利博						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	源氏物語に見る王朝の文化（続）
授業の概要	源氏物語のテキスト、および、それにかかわりのある諸文献を資料として、王朝文化の種々相を考える。和歌をはじめとする言語文化、衣食住にかかわる生活文化、仏教や陰陽道といった精神文化など、受講生それぞれが関心をもつ事項について、各自が考え、調べたことをクラスで発表し、それについての質疑応答を積み重ねて、さまざまな知見をメンバーで共有していく。 あわせて、効果的なプレゼンテーションの技能が修得できるようになることも課題としたい。
到達目標	日本の文化についての知見を増やすこと。プレゼンテーションの技能を磨くこと。
授業計画	１　受講生による発表　第１回 ２　第１回発表についての質疑応答 ３　受講生による発表　第２回 ４　第２回発表についての質疑応答 ５　受講生による発表　第３回 ６　第３回発表についての質疑応答 ７　受講生による発表　第４回 ８　第４回発表についての質疑応答 ９　受講生による発表　第５回 １０　第５回発表についての質疑応答 １１　受講生による発表　第６回 １２　第６回発表についての質疑応答 １３　受講生による発表　第７回 １４　第７回発表についての質疑応答 １５　演習の総括と期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	各自でテーマを見つけ、調べ、考えたことをまとめて、レジュメを作成する。
授業方法	演習形式による。
評価基準と評価方法	平常点６０％　期末試験　４０％
教科書	常用　源氏物語要覧（武蔵野書院）
参考書	授業時に指示する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	田附　敏尚						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	方言の研究領域を知る
授業の概要	卒業論文執筆の視野を広げるために、各自の研究テーマの近接領域の論文を読み、各自が演習形式で発表し、討論を行う。
到達目標	・テキストの的確な要約ができるようになる。 ・先行研究に対して批判的な目を持ち、問題点を見つけることができるようになる。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　近接領域の論文の検討 第３回　個人別演習発表① 第４回　個人別演習発表② 第５回　個人別演習発表③ 第６回　個人別演習発表④ 第７回　個人別演習発表⑤ 第８回　個人別演習発表⑥ 第９回　個人別演習発表⑦ 第10回　個人別演習発表⑧ 第11回　個人別演習発表⑨ 第12回　個人別演習発表⑩ 第13回　個人別演習発表⑪ 第14回　補足・追加発表 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	演習形式で行うため、発表の準備が中心となる。念入りに準備すること。
授業方法	演習形式
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%とレポート40%
教科書	なし。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	田附　敏尚						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	日本語のしくみを考える
授業の概要	卒業論文執筆の視野を広げるため、各自の研究テーマの近接領域の論文を読み、各自が演習形式で発表し、討論を行う。
到達目標	・テキストの的確な要約ができるようになる。 ・先行研究に対して批判的な目を持ち、問題点を見つけることができるようになる。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　近接領域の論文の検討 第３回　個人別演習発表① 第４回　個人別演習発表② 第５回　個人別演習発表③ 第６回　個人別演習発表④ 第７回　個人別演習発表⑤ 第８回　個人別演習発表⑥ 第９回　個人別演習発表⑦ 第10回　個人別演習発表⑧ 第11回　個人別演習発表⑨ 第12回　個人別演習発表⑩ 第13回　個人別演習発表⑪ 第14回　補足・追加発表 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	発表に際しては十分な準備をし、かつわかりやすく説明できるように準備する必要がある。 また、他の発表者に有効なコメントができるように準備することも必要である。
授業方法	演習形式
評価基準と評価方法	発表や質疑の内容60%　平常点40%
教科書	なし。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	田中　まき						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	『古今和歌集』の研究
授業の概要	我が国最初の勅撰和歌集である平安時代の『古今和歌集』について演習を行う。 具体的には、本学図書館所蔵の『古今和歌集かるた』を題材とし、まず、このかるたに取り上げられている絵札・字札が、どの歌を扱ったものかを解明し、その本文系統や絵の意味について探究する。 また、それぞれの歌の用語や修辞技巧、さらには、それぞれの歌に現れている王朝びとの発想や当時の人々の暮らしぶり、儀礼、行事についても考察する。
到達目標	本学図書館所蔵の『古今和歌集かるた』のすべての字札・絵札に書かれた文字を翻字する。 それぞれの歌の解釈や鑑賞ができる。
授業計画	第１回　『古今和歌集』の古注釈についての講義 第２回　『古今和歌集』の享受についての講義 第３回　『古今和歌集』賀の演習 第４回　『古今和歌集』離別の演習 第５回　『古今和歌集』羈旅の演習 第６回　『古今和歌集』物名の演習 第７回　『古今和歌集』恋一の演習 第８回　『古今和歌集』恋二の演習 第９回　『古今和歌集』恋三の演習 第10回　『古今和歌集』恋四の演習 第11回　『古今和歌集』恋五の演習 第12回　『古今和歌集』哀傷の演習 第13回　『古今和歌集』雑上の演習 第14回　『古今和歌集』雑下の演習 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	かるたの変体仮名の文字を読むことができるようになる。 『古今和歌集』の展開を理解できるようになる。 『古今和歌集』の歌が読解、鑑賞できる。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	演習の発表内容（60%）、小テスト（20%）、演習に対する取り組み（20%）
教科書	『古今和歌集』片桐洋一訳・注（笠間書院） ISBN 978-4-305-70417-7（4-305-70417-X）C392
参考書	授業中に提示する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本書道史						
担当教員	釣　年子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	今日当たり前のように使っている漢字や仮名であるが、それらは我々日本人が世界に誇るべき文化遺産である。今グローバル化する世界の中で、漢字や仮名について知ることを通して日本の文化を知ることは重要である。それらの起源から知ることで我々の祖先の想像力の豊かさや素晴らしさ、日本人としての誇りを感じられるようになることがテーマである。
授業の概要	日本書道史を時代区分し、各時代の時代背景・文化・文芸を踏まえた上で、その時代の書の特徴を解説する。実際に書いてみることで、書の変遷を体得する。政治的経済的影響を踏まえつつも、書の発達変遷に即した時代区分を採用する。文字の起源から始まり、中国風唐様と日本風和様の盛衰と、日本独自の仮名文字の発明と仮名書の発展変遷を、奈良時代から江戸、明治時代に至る日本の書の変遷の歴史として考察する。
到達目標	日本の書の歴史といってもただ単に書が時代とともにあったのではなく、書はそれぞれの時代を反映して変化し続けているのである。そこでこの授業では、各時代の背景と書の特徴を結びつけて、日本の書の歴史についての知識を習得する。
授業計画	第１回：オリエンテーション　（授業内容の説明や持ち物や注意事項の伝達） 第２回：日本書道史概要解説　年表チェック。 第３回：聖徳太子以前（漢字の伝来、文献記録と実物文字資料） 第４回：これより聖徳太子以降、大和時代（模倣期） 第５回：奈良時代（前項の続き、天平文化） 第６回：平安時代初期（過渡期　三筆） 第７回：平安時代中期～後期（完成期　三蹟　古筆名品） 第８回：平安時代中期～後期（前回の続き、古今集との関係） 第９回；仮名の変遷についてのまとめ 第10回：平安時代末～鎌倉時代（継承期　忠道　俊成　俊成　西行　後鳥羽天皇　定家　平家納経） 第11回：室町時代（衰微期　禅林墨跡） 第12回：安土桃山時代～江戸初期（復興期　寛永の三筆） 第13回：江戸時代～明治初期（普及期　御家流　儒学者、文人の書） 第14回：明治時代以降（楊守敬　北碑の書　難波津会　古筆の復興　新時代の書家達 第15回：定期試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を読んでくること。 授業後：授業で学んだことをもう一度と見直す際に、併せて図書館や手持ちの日本史や書作品について書いている本を見てみるとより理解がふかまり、レポート作成のときに役立ちます。
授業方法	講義と実技
評価基準と評価方法	平常点２０％　提出課題３０％　定期テスト５０％
教科書	「日本書道史年表」 名児耶明編　二玄社刊 定価１４７０円
参考書	必要に応じプリント配布

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶA／日本文化特殊講義A						
担当教員	田中　まき						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	美術工芸における平安文学の享受
授業の概要	平安時代の物語や歌集は、その時代だけでなく、連綿と読み継がれ、後世に多大な影響を与えてきた。それは文学の面だけではなく、文化全般に享受され、美術･工芸作品としても様々な多くの作品を生み出した。美しい料紙に流麗な文字で書かれた『西本願寺本三十六人集』や『元永本古今和歌集』などの豪華な装飾本歌集や、国宝『源氏物語絵巻』や『伊勢物語絵巻』などの絵巻から、王朝文化の華やかさや技術の高さを窺うことができる。 本授業では、このような平安文学の影響のもとに制作された美術･工芸品について、もとの平安文学を鑑賞するとともに、それがどのように享受されてきたか、その様相を講義する。 それらの美術･工芸品について、理解しやすいように、複製を示したり、パソコンやＤＶＤの画像をプロジェクターで示したりしながら解説する。
到達目標	美術・工芸品における平安文学の享受の様相を具体的に理解する。
授業計画	第１回　平安文学とその影響を受けた美術・工芸品についての概説 第２回　屏風歌と屏風絵 第３回　『古今和歌集』の写本（高野切・元永本・伝公任筆本・唐紙巻子本など） 第４回　『西本願寺本三十六人集』 第５回　歌仙絵と『佐竹本三十六人集』 第６回　古筆切と手鑑 第７回　冷泉家の至宝 第８回　国宝『源氏物語絵巻』 第９回　『伊勢物語絵巻』（白描梵字経下絵・久保惣本など） 第10回　本阿弥光悦と嵯峨本（古活字本）の刊行 第11回　『平家納経』などの装飾経 第12回　俵屋宗達と『伊勢物語図色紙』 第13回　尾形光琳の『伊勢物語』享受（国宝『燕子花図屏風』など） 第14回　古典文学をモチーフとした調度や衣装 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	古典文学と関わりのある美術・工芸品に興味を持ち、 それらが扱われた本やテレビ番組を見たり、展覧会に出かけたりする。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	試験（90%）と平常点（10%）
教科書	『カラー版 王朝文学選』岡野通夫･小山利彦監・奈古忠國編（おうふう）978-4-273-02212-9 プリントを併用する。
参考書	授業中に提示する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶB／日本文化特殊講義B						
担当教員	大坪　亮介						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	お伽草子を読む。
授業の概要	お伽草子は、主として室町時代に広く楽しまれた物語類をいう。本授業ではそのうち、平安時代の学者である紀長谷雄と鬼の対決を描く『長谷雄草子』と、男に裏切られて大蛇となった女の話『道成寺縁起』を読む。また、鬼と人造人間、鬼と人間心理との関わりといった角度から考察を行い、鬼の諸相を探っていく。
到達目標	古来より日本人に恐れられると同時に親しまれてもきた鬼という存在について、理解を深める。
授業計画	第1回　鬼の歴史 第2回　中世文学の鬼 第3回　絵巻とお伽草子 第4回　『長谷雄草子』を読む（1）鬼と長谷雄の対決 第5回　『長谷雄草子』を読む（2）鬼の残した美女 第6回　『長谷雄草子』を読む（3）消えた美女 第7回　『長谷雄草子』を読む（4）美女の正体 第8回　鬼と人造人間 第9回　寺社縁起とお伽草子 第10回　『道成寺縁起』を読む（1）僧と女の出会い 第11回　『道成寺縁起』を読む（2）大蛇となった女 第12回　『道成寺縁起』を読む（3）僧の最期 第13回　『道成寺縁起』を読む（4）二人の真の姿 第14回　鬼と人間の心理 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	本授業で取り上げる作品は事前に必ず読んでおくこと。
授業方法	講義。
評価基準と評価方法	①平常点50%　②期末試験50%
教科書	プリント配布。
参考書	授業中適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶC／日本文化特殊講義C						
担当教員	惠阪　友紀子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	古典文学における旅
授業の概要	交通手段の発達した現代では、旅行は手軽な娯楽の一つである。しかし、昔の人にとっては、さまざまな制限があったり、危険がつきまとうものであったりと、決して自由に楽しめるものではなかった。そのような状況で、古代・中世の人々は、どのように旅をし、なぜ旅に出たのか。旅とは何であったのか、いつから娯楽として楽しまれたのか。本講義では、古典文学に描かれた旅を読み解くことで、古代から近世までの旅について考えたい。
到達目標	古典文学に描かれた古代から近世における旅の様相を理解する。
授業計画	第１回　神話に描かれた旅　―ヤマトタケルの旅― 第２回　万葉時代の旅 第３回　左遷の旅路　―菅原道真太宰府への旅― 第４回　男性の旅　―『伊勢物語』の「東下り」― 第５回　男性が描く女性の旅　―『土佐日記』の船旅― 第６回　女性の旅　―『更級日記』の旅― 第７回　王朝人の寺社参詣の旅　―初瀬詣― 第８回　僧侶の旅　―西行の旅― 第９回　追われる旅　―平家の都落ちと『平家物語』― 第10回　鎌倉への旅　―『東関紀行』と中世の紀行文― 第11回　室町時代の旅　―能に見る僧の旅― 第12回　俳諧紀行　―芭蕉と『奥の細道』― 第13回　浄瑠璃・歌舞伎における道行文 第14回　伊勢参りの流行と『東海道中膝栗毛』 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：配布するプリントを読んでおく 授業後学習：プリントの文章が読解できるよう復習し、要点をまとめておく。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	試験（70%）、課題（30%）
教科書	プリントを使用する。
参考書	授業中に提示する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶD／日本文化特殊講義D						
担当教員	秋本　鈴史						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	日本芸能史入門・歌舞伎
授業の概要	江戸時代を代表する芸能である歌舞伎について考える。異常な行動をすることを戦国末期には「かぶく（傾く）」といい、熱病のように流行した。社会の混乱の中でこうした異常な行動を取る「かぶきもの」が増えていったが、やがてその精神だけが芸能として残った。それが「かぶき」である。現代にも続くこの芸能について、入門者用にその概略を考えてみたい。
到達目標	日本文化の代表の一つである歌舞伎の基礎と概要を学ぶ。
授業計画	第１回　歌舞伎入門 第２回　歌舞伎の歴史１　成立から元禄歌舞伎まで 第３回　歌舞伎の歴史２　江戸歌舞伎の流行から明治まで 第４回　歌舞伎役者１　歴史と役柄 第５回　歌舞伎役者２　身分と生活 第６回　歌舞伎の観客 第７回　歌舞伎の劇場 第８回　歌舞伎のドラマ１　戯曲 第９回　歌舞伎のドラマ２　種類 第10回　歌舞伎の演出１　音楽と舞踊 第11回　歌舞伎の演出２　大道具・小道具 第12回　歌舞伎の作品１　歌舞伎18番 第13回　歌舞伎の作品２　義太夫狂言 第14回　歌舞伎の作品３　舞踊劇 第15回　まとめと筆記試験
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のＡＶセンターにあるＤＶＤで舞台映像を見て学ぶ必要がある。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	小テスト50%　期末テスト50%
教科書	プリントを配布。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化入門						
担当教員	片岡　利博						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	高校までに学んできた古典文学作品についての知識を体系的に整理するとともに、それぞれの作品が生み出された歴史的背景と関連づけて理解させ、日本文化の一環として文学作品を捉える視点を修得させる。
授業の概要	多様な古典の世界を学びつつ、高校までの勉強とはひと味違った形で、日本文化や日本文学の世界を紹介してゆく。
到達目標	個別の作品を文化史の流れの中に位置づけて捉えることができるようにする。
授業計画	１　日本文学のジャンルと歴史区分 ２　口承と漢字(万葉集) ３　仮名と漢字（土佐日記・御堂関白記） ４　日本語のエクリチュール（説話文学） ５　天皇制と宮廷サロン（枕草子） ６　伝承話型（竹取物語） ７　神々と仏教 ８　日本の年中行事 ９　制度と政治 １０　通過儀礼 １１　恋愛と結婚（蜻蛉日記） １２　医療と呪術（源氏物語） １３　命と心と身体（源氏物語） １４　和本の諸相 １５　総括と試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の予習はとくに必要なし。 授業後、授業内容を反芻し、要点を各自で整理しておくこと。
授業方法	講読を交えての講義
評価基準と評価方法	出席点５０点と、レポートおよび期末試験５０点
教科書	プリントによる。
参考書	教室で指示する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化入門						
担当教員	片岡　利博						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	高校までに学んできた古典文学作品についての知識を体系的に整理するとともに、それぞれの作品が生み出された歴史的背景と関連づけて理解させ、日本文化の一環として文学作品を捉える視点を修得させる。
授業の概要	多様な古典の世界を学びつつ、高校までの勉強とはひと味違った形で、日本文化や日本文学の世界を紹介してゆく。
到達目標	個別の作品を文化史の流れの中に位置づけて捉えることができるようにする。
授業計画	１　日本文学のジャンルと歴史区分 ２　口承と漢字(万葉集) ３　仮名と漢字（土佐日記・御堂関白記） ４　日本語のエクリチュール（説話文学） ５　天皇制と宮廷サロン（枕草子） ６　伝承話型（竹取物語） ７　神々と仏教 ８　日本の年中行事 ９　制度と政治 １０　通過儀礼 １１　恋愛と結婚（蜻蛉日記） １２　医療と呪術（源氏物語） １３　命と心と身体（源氏物語） １４　和本の諸相 １５　総括と試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の予習はとくに必要なし。 授業後、授業内容を反芻し、要点を各自で整理しておくこと。
授業方法	講読を交えての講義
評価基準と評価方法	出席点５０点と、レポートおよび期末試験５０点
教科書	プリントによる。
参考書	教室で指示する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文学史A						
担当教員	秋本　鈴史						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	日本の「うた」の歴史　韻文学入門
授業の概要	日本文学の歴史を、日本歴史の流れに位置づけながら学ぶ。「うた」の系譜に属する文学を中心に学ぶ。文字を持たなかった日本人は、中国語の文字を使って何とか日本語を残そうとした。そうまでして残したかった日本語が「うた」であった。「うた」は、五七調のリズムにのせた日本語の美しい響きと、叙情的な日本人の心情を伝えてきた。万葉集から古今・新古今の和歌に受け継がれた「うた」は、やがて連歌の世界を切り開き、俳諧の世界へ連なってゆく。五七五のわずか十七文字で世界を表現する短詩系の究極の形にいたるまでの歴史を学ぶ。
到達目標	日本文学の歴史の基礎を学ぶ。
授業計画	第１回　日本語の歴史 第２回　万葉の歌１ 第３回　万葉の歌２ 第４回　王朝の歌『古今集』 第５回　王朝の歌『三代集』 第６回　王朝の歌『新古今集』 第７回　和歌の流れ　八代集とその後 第８回　はやりうたの世界(今様など 第９回　堂上連歌と地下の連歌 第10回　連歌『水無瀬三吟』 第11回　俳諧の連歌 第12回　新たな俳諧　松永貞徳と西山宗因 第13回　松尾芭蕉 第14回　狂歌・川柳・はやり歌など 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んで自分で学ぶ必要がある。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	小テスト50%　期末テスト50%
教科書	『日本古典読本』秋山虔・桑名靖治・鈴木日出男著 筑摩書房　ISBN: 448091708X
参考書	

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文学史B						
担当教員	青木　稔弥						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	「文学史」の視点から見る「作品」
授業の概要	明治・大正・昭和期の文学作品を文学史の観点から読み解く。文学作品を個々別々のものとして捉えるのではなく、様々な連鎖の中で有機的に読み解く作業をなす。細部を通して見えてくる文学史の全体像の構築が最終目標である。
到達目標	明治・大正・昭和期の文学を時流に沿いながら深く理解することを目指す
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　近代の文学とは？ 第３回　明治期の散文　導入 第４回　明治期の散文　応用 第５回　明治期の韻文 第６回　大正期の散文　導入 第７回　大正期の散文　応用 第８回　大正期の韻文 第９回　昭和期の散文　導入 第10回　昭和期の散文　応用 第11回　昭和期の韻文 第12回　戦後の文学　導入 第13回　戦後の文学　応用 第14回　まとめと筆記試験 第15回　総まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%
教科書	『近代文学年表』双文社出版 ISBN:4-88164-031-3
参考書	授業中に指示する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	文法・敬語の基礎知識／国語学講読D						
担当教員	田附　敏尚						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	日本語文法・敬語についての基礎的研究
授業の概要	現代日本語の課題のひとつに、多言語・多文化共生社会の実現がある。同じ言語を使用する人々はもちろん、異言語・異文化の人々が相互に理解し、尊重し合って生きていくためには、ことばや文化、生活習慣や価値観の多様性を認め合うことが不可欠である。 この講義では、日本語の文法、敬語のしくみとその効果的な運用について考えることで、気持ちや考えを伝え合うことばのはたらき、伝え合うことによって人間関係を築く話しことばのはたらきについても考えを深めていきたい。
到達目標	・日本語の敬語のしくみと運用について規範に則った適切な使用ができるようになる。 ・日本語文法の基礎を学び、その構造を把握することによって、語の分類や選別ができるようになる。また、日本語の文法事項について説明できるようになる。
授業計画	第１回　ガイダンス／敬語の種類とはたらき①　素材敬語と対者敬語 第２回　敬語の種類とはたらき②　尊敬語・謙譲語（謙譲語Ⅰ） 第３回　敬語の種類とはたらき③　丁重語（謙譲語Ⅱ）・丁寧語 第４回　敬語の種類とはたらき④　美化語、二重敬語 第５回　間違いやすい敬語 第６回　「丁寧に話す」とは？ 第７回　日本語の文法①　文の成り立ち 第８回　日本語の文法②　格・動詞の自他 第９回　日本語の文法③　主語と主題 第10回　日本語の文法④　ヴォイス 第11回　日本語の文法⑤　テンス・アスペクト① 第12回　日本語の文法⑥　テンス・アスペクト② 第13回　日本語の文法⑦　モダリティ 第14回　日本語の文法⑧　指示語 第15回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	準備は特に必要ないが、授業が進むに従って、敬語や文法の問題を身近な例で確認することに努めてほしい。 授業内で小テストを行うことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価30% 小テスト・出席票（コメントシート）30%、期末試験40%
教科書	プリントを適宜配布するほか、プレゼンテーションソフトを用いて内容を提示する。 ※ノート必須です。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの基礎						
担当教員	吉岡　美賀子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	広義のプレゼンテーションにおける技術の理解と習得
授業の概要	発声練習をはじめ、発音、アクセント、滑舌など、プレゼンテーションの基礎に触れる。その後、コマーシャル、フリートークなど、場面を想定してプレゼンテーションの実践に取り組む。なおその際の原稿は、自分で作ることになる。相手にいかにわかりやすく伝えることができるか、その方法を具体的に学ぶ。
到達目標	人前で話すために必要な技術、心構えを理解し、様々な場面を想定して実践する。
授業計画	第１回　発声練習 第２回　滑舌練習 第３回　アクセント 第４回　一番短いプレゼンテーション—CM 第５回　CM読みの実践１ 第６回　CM読みの実践２（声の表情を変えて） 第７回　フリートーク 第８回　ビブリオバトルとは 第９回　ビブリオバトルの実践 第１０回　ビブリオバトルの実践（仕上げ） 第１１回　第一印象の作り方 第１２回　朗読について 第１３回　原稿の作り方 第１４回　朗読の実践 第１５回　読み聞かせ （受講者数によって内容が前後することがあります。）
授業外における学習（準備学習の内容）	◎ビブリオバトル—５分間で本を紹介する。紹介したい本を選んで、紹介ポイントを探っておく。 ◎朗読—題材は自由。時間は２分程度。コピー、手書き等で原稿を作り、読むときの工夫を書きこんでから、一部コピーしたものを発表時に提出すること。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	実技40%、ミニレポート(授業の中で提出）60%。欠席は減点、遅刻は３回で欠席１回と同等扱い。 3分の2以上の出席と課題実技（朗読）がなければ、単位は認めない。
教科書	なし
参考書	なし